

## 令和 5 年度事業報告

神奈川県聴覚障害者福祉センターは、昭和 55 年 4 月 1 日開設以来 43 年を経過した。令和 3 年度から、4 期目の指定管理者として、県との協定に基づき事業を実施した。聴覚障がい乳幼児・学齢児、ろうあ者、中途失聴者、難聴者等聴覚障がい児者を対象として、各種相談、社会適応訓練、日常生活に必要な情報の提供、聴覚障がい児の早期支援、手話通訳者及び要約筆記者の養成・派遣等を行い、聴覚障がい児者の社会的自立の促進と福祉の増進を図るため次の事業を行った。

### 1 相 談

利用者のライフステージに応じて、聴覚障がい児者と家族及び関係者を対象に相談を行った。

利用者の状況に応じて、適切な情報提供、助言等を行い、課題解決に結びつけていくもの、支援（補聴支援、聴覚障がい乳幼児支援、コミュニケーション支援等）につなげていくもの、関係機関、関係団体等と連携するものなどがあり、利用者とともに課題解決に向けて、一緒に考え、一緒に解決に向けて歩んでいくことで、利用者の自己選択、自己決定を支援した。

主訴による相談の中から、利用者の思いから、様々な相談へ枝分かれしていくことがある。一つひとつの相談を大切に、課題解決に向けた情報提供にも努めた。

また、利用者が地域の一員として、自己実現が可能となるよう、市町村と一体となった支援のために、市町村への適切な情報提供、地域へ赴いての連携など、市町村の聴覚障がい福祉向上のための支援も行った。

来所等継続相談では、担当別に、聴覚障がい乳幼児・学齢児、ろうあ者、中途失聴者・難聴者相談を行うとともに、耳鼻科医師による医療相談を行った。原則として予約制とした。

ろうあ者相談、中途失聴者・難聴者相談では、より利用者に寄り添った相談、支援につなげるため、ピアカウンセリングを実施した。

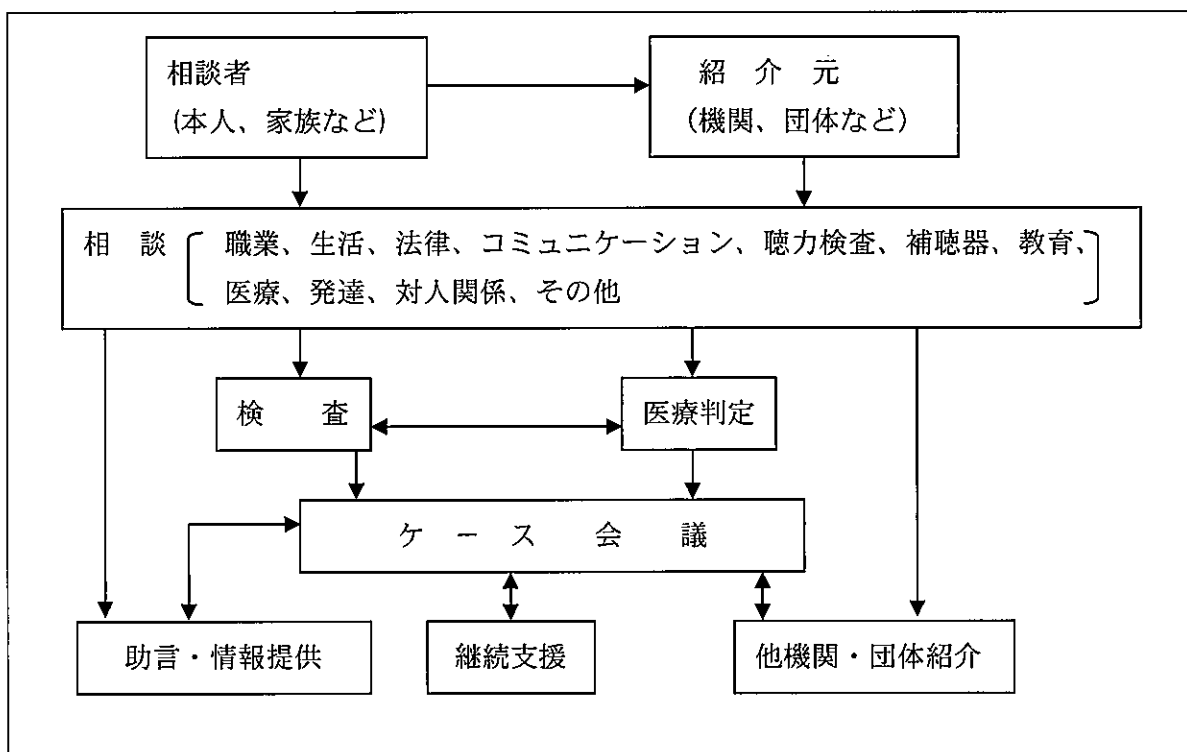
また、電話、ファックス等単発相談（電話、ファックス、メール、来所等）も行った。

相談件数は、4,255 件（来所等継続相談 4,124 件、電話・ファックス等単発相談 131 件）であった。

新型コロナウイルス感染拡大予防対策により、昨年度に引き続き、電話、ファックス、メール等による相談は継続した。また、SNS、オンライン会議システム等を利用した相談も実施した。

映像によるオンラインでの相談件数は31件であった。

また、地域での相談会を実施した。当センターから離れた地域を中心に、聴覚障がい児者の地域のニーズを掘り起こし、市町村と連携してコミュニケーション、社会生活支援などにつなげて、どの地域でも同様の福祉サービスが受けられる環境の構築をめざした。相談の実施とともに、聴覚障がいに関する情報提供、聴覚障がい者用の機器の紹介等も合わせて実施した。



(1) 来所等継続相談

ア 対象別内訳

区分	件数	対象別内訳	件数	計	合計
聴覚障がい児等	726件	乳幼児	582件	4,099件	4,124件
		学齢児	144件		
聴覚障がい者等	3,373件	ろうあ者	708件		
		中途失聴者・難聴者	2,665件		
医療相談			25件	25件	

イ 年齢・年代別内訳

聴覚障がい児等										
乳幼児						学齢児			計	
0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	小学生	中学生	高校生	726件
70件	58件	79件	131件	104件	79件	61件	97件	35件	12件	
聴覚障がい者等										
10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	計	
1件	22件	84件	517件	286件	248件	891件	1,124件	225件	3,398件	

(注1) 聴覚障がい者等の10代には、中・高校生を除いている。

(注2) 聴覚障がい児等、聴覚障がい者等には医療相談の件数を含む。

ウ 主訴別内訳

(ア) 乳幼児・学齢児相談

年間の実相談人数は104人であった。SNSのLINEチャット機能を活用した、文字でのメール相談は1件である。

相談の主訴はコミュニケーション関係、聴力検査、補聴器関係が最も多い。保護者が子どもの言葉の発達や聞こえの反応、コミュニケーション等に不安を抱えている場合や、難聴と診断されて今後どのように育っていくのか不安を抱えている場合等が多い。さらに、保育所や幼稚園等で聴覚障がいを理解してもらうにはどうすれば良いか、聴覚障がいと他の障がいを併せ持っている子どもの補聴器装用やコミュニケーション等をどのようにすると良いか等、相談内容は多岐にわたる。

新規相談人数は61人で、市町村の母子保健や発達相談からの紹介が最も多い。今後も聴覚障がい児の早期発見、早期支援へとつなげていくために、引き続き市町村、医療機関、教育機関等の、各関連機関との連携を強化していきたい。

区分	聴力検査	補聴器関係	コミュニケーション関係	指導機関・進路	医療関係	福祉関係	関係機関連絡調整	その他	計
件数	136件	111件	258件	50件	31件	51件	78件	11件	726件

(イ) ろうあ者相談

年間の実相談人数は46人、新規相談人数は11人であった。

手話での映像によるオンラインでの相談件数は29件であった。また、SNSのLINEチャット機能を活用した、文字でのメール相談は67件であった。

相談の傾向としては、対人、コミュニケーション関係や医療関係が増加している。特に職業関係は増加している。コロナ5類移行により人とのつながりが増え、対人関係から仕事内にいざこざが起きてしまったなどの相談が寄せられた。他、ハローワーク、障

害者就労支援事業所などの関係機関と連携して、コミュニケーションの支援につなげる取り組みを継続している。

また、精神障がいを持つろう者について、定期的な傾聴を継続しながら、病院、関係機関とのケース会議に参加し、連携して支援している。

その他に関しては、企業や施設からの電話相談がほとんどで、その後企業や施設に赴いてコミュニケーション支援を行った。

市町村の設置手話通訳者との連携強化もすすめている。設置手話通訳者の設置地域、日数増加により手話で相談できる体制が、市町村で充実しつつある。

今後も市町村設置手話通訳者、公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会などの関係団体等と情報共有をはかりながら、支援につながるよう努めたい。

区分	職業 関係	コミュニケーション 関係	対人 関係	生活 関係	福祉 関係	医療 関係	法律 関係	補聴器・ 聴力検査	その他	計
件数	213件	33件	43件	278件	14件	68件	30件	22件	7件	708件

#### 手話によるオンライン相談

区分	職業	コミュニケーション	対人	生活	福祉	医療	法律	計
件数	12件	3件	0件	11件	1件	2件	0件	29件

#### (ウ) 中途失聴者・難聴者相談

年間の実相談人数は333人、新規相談人数は168人であった。また、映像によるオンラインでの相談件数は2件であった。

高齢者の補聴器に関する相談が昨年よりさらに増加している。その内訳をみると、後期高齢者が圧倒的に多い。

昨年度同様に、新型コロナウイルス感染拡大予防対策を講じつつ、対応した。昨年と同様、コロナで相談を控えていた人が、今年度も増えた印象がある。コロナ禍で、マスク着用が当たり前になり、会話での困難感を訴えるのは変わらないが、困難の中で、音声認識アプリなどを使っての工夫が徐々に普及している実感がある。

家族等に促されて来所したものの、コロナがきっかけで集まりが中止、そのまま、人との交流が減少してしまったケースも見られた。そのため、補聴器を使う機会がない。補聴器への抵抗もあり、装用に結びつかないケースも見られた。本人に補聴器装用の意欲がないものの、周囲の家族は装用してほしいと、思いが一致しないケースは昨年と同様である。どう対応したらいいか、苦慮する。

来所者の紹介やインターネット検索で相談につながっていることが依然として多い。

若年層の場合は、障がい受容の問題、聴覚障がいと他の疾患を併せ持つケース、就労の問題など、複雑化している。特にコロナ禍で孤立感を強めている場合も少なくない。

特定非営利活動法人神奈川県中途失聴・難聴者協会などの当事者団体との連携も欠かせない。

区 分	聴力 検査	補聴器 関係	コミュニケーション 関係	生活 関係	医療 関係	福祉 関係	その他	計
件 数	362 件	1,848 件	2 件	141 件	195 件	116 件	1 件	2,665 件

#### (エ) 医療相談（隔月 1 回）

非常勤耳鼻科医師による相談を行った。聴覚障がいや聴力回復の可能性等について、耳鼻科医師の立場から時間をかけて情報提供、助言を行っている。このことで、障がい受容のための支援につなげている。

区 分	身体障害者手帳	補聴器意見書	その他	計
件 数	8 件	10 件	7 件	25 件

#### (2) 電話・ファックス等による単発相談

電話、ファックス、メール、来所などで様々な単発の相談に応じた。

区 分	福祉・制度	補聴器関係	コミュニケーション 関係	医療関係	その他	計
件 数	81 件	5 件	39 件	3 件	3 件	131 件

#### (3) 地域における相談会

地域における相談会は、当センターからの離れた地域として湯河原町、愛川町で実施した。実施にあたっては、開催地の行政の協力を得た。

必要に応じて、補聴器の調整等に関することや、聴覚障がい乳幼児支援に関する相談は、来所等継続相談につなげた。

また、特定非営利活動法人神奈川県中途失聴・難聴者協会が、地域で開催した「きこえの生活相談会」（秦野市、大磯町）に協力した。

##### ア 地域相談会

(ア) 日 時 令和 6 年 2 月 24 日（土）10：00～15：00

(イ) 場 所 湯河原町防災コミュニティセンター

(ウ) 内 容

- a 聴覚障がい児者相談
- b 聴覚障がい者用福祉機器の展示、説明
- c 聴覚障がい及び当センター事業関係チラシ・パンフレット等の紹介、配布

d 自主制作番組の放映

(エ) 来場者数 10人

(オ) 件数 17件

イ 補聴相談会

(ア) 日時 令和6年3月24日(日) 10:00~15:00

(イ) 場所 愛川町文化会館

(ウ) 内容

a 補聴相談

b 聴覚障がい者用福祉機器の展示、説明

c 聴覚障がい及び当センター事業関係チラシ・パンフレット等の紹介、配布

(エ) 来場者数 1人

(オ) 件数 4件

## 2 支 援

聴覚障がい児者が、ろう者、中途失聴者、難聴者として堂々と地域で自分らしく生きていくために、補聴支援（聴力検査、補聴器適合、自立支援等）や聴覚障がい乳幼児支援、聴覚障がい者を対象としたコミュニケーション支援を行い、コミュニケーション方法の習得や改善、聴覚障がい者同士のグループによるピアサポート等によるアイデンティティの確立や障がい受容の促進により、聴覚障がい児者の自立と社会参加を支援した。

また、聴覚障がい者側、聴覚障がい側から情報発信を行うとともに、地域や関係機関、関係団体等との情報共有、連携をすすめた。

### (1) 補聴支援

聴力検査、補聴器適合等、自立支援を行い、聴覚障がい児者が、日常的にコミュニケーションが取りにくい、取れない状況の改善を支援した。

聴力検査は、聴覚状況の管理、分析だけでなく、聴覚障がい児者が自らの聴力等の状態を理解し日常生活の改善に役立てることを促すとともに、補聴器調整にも活用した。

補聴器を日常生活で有効に活用していくために、補聴器を調整、適合し、学校、自宅、会社等での試聴を繰り返し行い、他機種による違いの確認等を、聴覚障がい児者や家族等が実践し、補聴器やコミュニケーションの改善方法について、理解を深めていく支援を行った。また、感音性難聴の特徴、補聴器の効果と限界、周囲の協力による効果拡大などの情報提供も行った。

聴力検査、補聴器体験等に基づいた自立支援として、聴覚障がい児者等の状況に合わせて、段階的に、助言及び情報提供による支援を行い、アイデンティティの確立や、障がい受容の促進の支援を行った。

自立支援として、次の支援を行った。

支援区分	目 標
補聴器に関する自立	補聴器の特徴を理解し、補聴器を活用しての日常生活の改善を行えること。また、補聴器の調整、選定及び故障時の対応等における補聴器販売店の活用を行える等、補聴器に関する全般について自己選択、自己決定が行える。
聴力管理の自立	自らの聴力について理解し、定期的に聴力を確認し、変動時の耳鼻科受診などの緊急対応を含めて、聴力を確認し管理できる。
コミュニケーションの自立	自らのコミュニケーション方法を理解し、相手に対しても自らのコミュニケーション方法を説明、理解を促し、自らがコミュニケーションしやすい環境を培うことができる。
心理的自立	聴覚障がいの特徴を理解し、自らの状況を理解するとともに、現状を受け入れ、現状に立った自らの生き方設計を行うことができるとともに、自らの状態を他者に伝え、理解を得られる。

区 分		件 数	
聴力検査		554 件	
補聴器適合		1,062 件	
他の検査（言語機能・知能・発達等）		8 件	
自立支援	補聴器に関する自立	1,082 件	1,696 件
	聴力管理の自立	472 件	
	コミュニケーションの自立	130 件	
	心理的自立	12 件	
合 計		3,320 件	

補聴器貸し出し件数 408 件

## （2）聴覚障がい乳幼児支援

聴覚障がい乳幼児とその家族を対象に言語及びコミュニケーションについての支援を実施した。

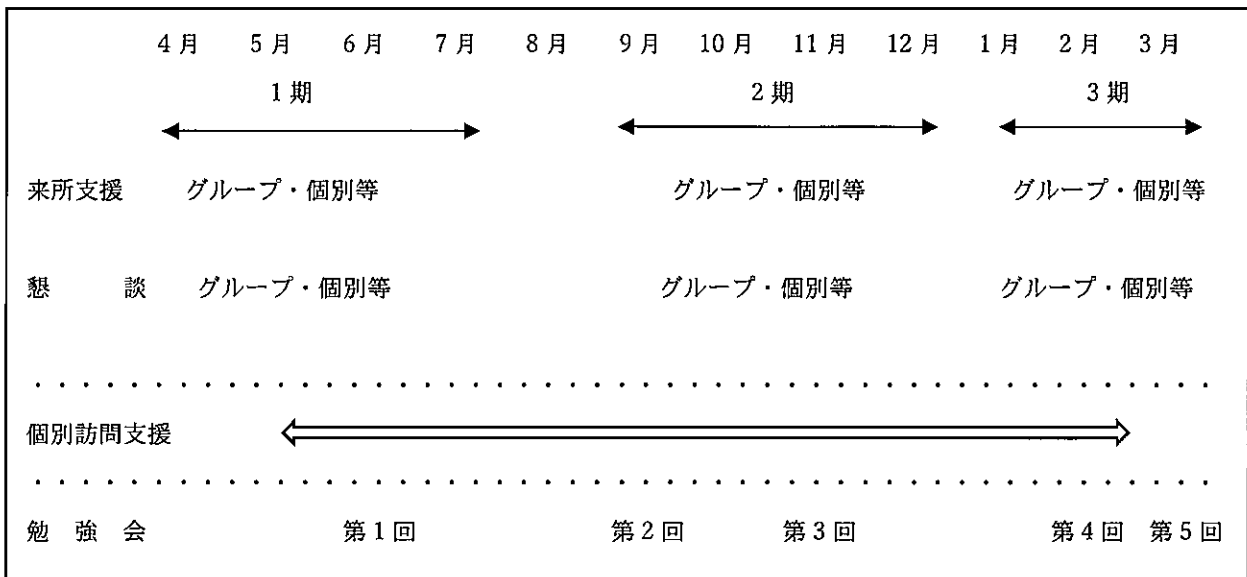
様々なコミュニケーション方法を用いて、聴覚障がい乳幼児と家族等との共感関係の構築による、信頼関係を基本とした。聴覚障がい乳幼児のコミュニケーション意欲を向上させ、家庭内及び社会での体験等を繰り返し実施することで、家族等が聴覚障がい乳幼児と向き合い、接していく姿勢を養うとともに、総合的なコミュニケーション能力の向上、発達と社会性の習得を図った。

来所支援は、3期制（4月～7月、9月～12月、1月～3月）とした。原則週1回～月1回程度、年齢別のグループまたは個別での支援を行った。期ごとに支援の開始前のオリエンテーション、終了後には、まとめ会として懇談を実施し、期ごとの目標設定、成果と課題等の話し合いを行った。

個別訪問支援では、地域に赴き、幼稚園、保育所等での聴覚障がいの理解、コミュニケーション方法の留意事項等に関する支援を行った。

勉強会は、聴覚障がいに関する理解を深める機会として、様々なテーマで年5回実施した。在室児を含め、聴覚障がい児の保護者、家族、関係者等多くの人に参加してもらえるよう、対象を広く設定して実施した。





ア 在室児数

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
1人	2人	1人	4人	1人	1人	10人

イ 支援区分

区 分	回 数	支援人数	延支援人数
年齢別グループ来所支援	60回 (1回)	24人	145人 (2人)
懇談	21回	10人	26人
個別訪問支援 (幼稚園等)	4回	17人	17人
勉強会	5回 (5回)	82人	118人 (103人)
合 計	90回 (6回)		306人 (105人)

※ 支援人数は、在室児と保護者を含む。

※ ( )内はオンラインの、回数または延支援人数の、内数。

※ 来所支援回数は、個別、合同での支援を含む。

ウ 年齢別来所支援回数

区 分	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
来所支援	6回	5回	15回	24回	4回	9回

※ 回数は、合同での来所支援回数を年齢別にカウントした回数を含む。

エ 地域別個別訪問支援回数

市町村名	回 数
藤 沢 市	2 回
鎌 倉 市	1 回
平 塚 市	1 回
計	4 回

オ 勉強会

期 日	テーマ	講 師	定員	参加者数
令 5.7.22	片耳難聴って どうということ？ (参集・オンライン併用)	きこいろ片耳難聴のコミ ュニティ 代表 岡野 由実 氏	参集 10 人	21 人 参集：2 人 OL：19 人
令 5.10.14	ことばの教室ってどんな ところ？ (参集・オンライン併用)	藤沢市立俣野小学校 ことばの教室担当 教諭 山部 祐子 氏	参集 10 人	16 人 参集：7 人 OL：9 人
令 5.11.25	難聴の子どもたちがより 過ごしやすいようになるために、 周囲のわたしたちができる こと (オンライン)	難聴の子を持つ家族会 そらいろ 代表 岩尾 至和 氏	定員 なし	OL：34 人
令 6.1.20	きょうだい児の気持ちを考 える 聴覚障がい児と聞こえる きょうだいの子育て (参集・オンライン併用)	聞こえないきょうだいを もつ SODA ソーダの会 代表 藤木 和子 氏	参集 10 人	27 人 参集：3 人 OL：24 人
令 6.2.17	聴覚障がい乳幼児の子育 てで大切なこと (参集・オンライン併用)	元神奈川県立平塚ろう学 校教諭 大石 視朗 氏	参集 10 人	20 人 参集：3 人 OL：17 人

※ オンライン参加には、定員を設けていない。

※ 「OL」はオンライン。参加者数の参集、OLは内数。

(3) コミュニケーション支援

聴覚障がい者を対象に、より良いコミュニケーション手段、方法を身につけるために行った。また、社会参加につながる一つのステップとして考えている。

手話、読話、ICT活用等のコミュニケーションについて、グループで総合的に支援するコミュニケーショングループ支援と、聴覚障がいに関する情報を共有するために単月

1 回行うコミュニケーション支援講座を実施した。

講師は、職員をはじめ、聴覚障がい者、要約筆記者及び専門の講師が担った。コミュニケーショングループ支援は、令和5年度からコミュニケーション方法別の手話教室、読話教室を統合し、ニーズが拡大している ICT 活用等を加えたコース（15 回）に再編した。令和5年は2コース実施した。

コミュニケーショングループ支援は、同じ障がいを持った仲間と学ぶことで精神的負担を軽減するグループワーク的効果を期待するとともに、手話、読話などのコミュニケーション方法の段階的な習得や、聴覚障がい、コミュニケーション等の総合的な学習の場を設け、アイデンティティの確立や、障がい受容を支援した。特に中途失聴者、難聴者は、自らの周囲には同じ障がいを持った仲間が存在しないため、同じ障がいを持った仲間と接した経験が乏しく、アイデンティティの確立や、障がい受容の課題を抱えている。特定非営利活動法人神奈川県中途失聴・難聴者協会の協力も得ながら、社会参加の推進にも努めた。手話に関しては、手話奉仕員養成講座のようなカリキュラムではなく、参加した利用者の状況に応じてカリキュラムを作成し、最終的には簡単な手話で、会話ができる程度の手話が定着することを目指した。読話に関しては、口形だけでなく、話し手の表情や、会話の前後関係等から話の内容を類推するもので、読話の特徴、方法の基礎を学習した。また、手話、読話だけでなく、筆談、補聴器なども活用して、相互理解をはかりながら、すすめた。ICT 活用に関しては、音声認識アプリの紹介、操作、活用方法や電話リレーサービスの紹介など、日常生活でのコミュニケーションの円滑化を図った。これらを総合的に実施することで、アイデンティティの確立や、障がい受容を促すとともに、コミュニケーションの幅を広げ、手話、読話、ICT 活用、補聴器等を組み合わせることで、正確なコミュニケーションを図ることを目指した。

コミュニケーション支援講座は、主に中途失聴者、難聴者を対象に、聴覚障がいに関わるコミュニケーション、福祉制度、補聴器や福祉機器など、聴覚障がいに関わる情報を学ぶ場として単発で実施した。同じ障がいを持った仲間と接する機会を設けることで、アイデンティティの確立や、障がい受容の促進を目指した。聴覚障がい者が日常生活を自分らしく過ごすためには、周囲の理解、特に家族の理解は重要なため、聴覚障がい者の家族にも参加を呼びかけた。参集だけでなく、新型コロナウイルス感染拡大予防対策をきっかけに始めたオンラインも併用して開催した。今年度はオンラインでの参加者は昨年より半数に減少した。

区 分	回 数	定 員	参加人数	延人数
コミュニケーショングループ支援（前期）	15 回	8 人	7 人	57 人
コミュニケーショングループ支援（後期）	15 回	8 人	5 人	44 人
コミュニケーション支援講座	12 回（9 回）	各 20 人	251 人	251 人（31 人）
合 計	42 回（9 回）			352 人（31 人）

※ ( ) 内は、オンラインの回数または延人数の、内数。

※ オンラインには、参集・オンライン併用を含む。

### コミュニケーション支援講座（月1回）

回	テーマ	定員	開催方法	参加者数
1	きこえの基礎知識（医師の講演）	20人	参集・オンライン併用	13人（3人）
2	豊かなコミュニケーションのために	20人	参集・オンライン併用	37人（6人）
3	体験談（1）	20人	参集・オンライン併用	27人（4人）
4	読話って何？きこえを助けるコミュニケーション方法	20人	参集・オンライン併用	22人（4人）
5	手話をやってみよう①	20人	参集	12人
6	講演「鑑賞のための情報保障～バリアフリー字幕を楽しむ～」	20人	参集・オンライン併用	17人（2人）
7	きこえない「わたし」の毎日の作り方	20人	参集・オンライン併用	21人（3人）
8	きこえを助ける機器や便利なツール	20人	参集・オンライン併用	27人（2人）
9	手話をやってみよう②	20人	参集	17人
10	要約筆記の上手な利用方法	20人	参集・オンライン併用	16人（5人）
11	手話をやってみよう③	20人	参集	22人
12	体験談（2）自分のきこえを伝えてみよう	20人	参集・オンライン併用	20人（2人）

※ ( ) 内は、オンラインの参加者数。内数



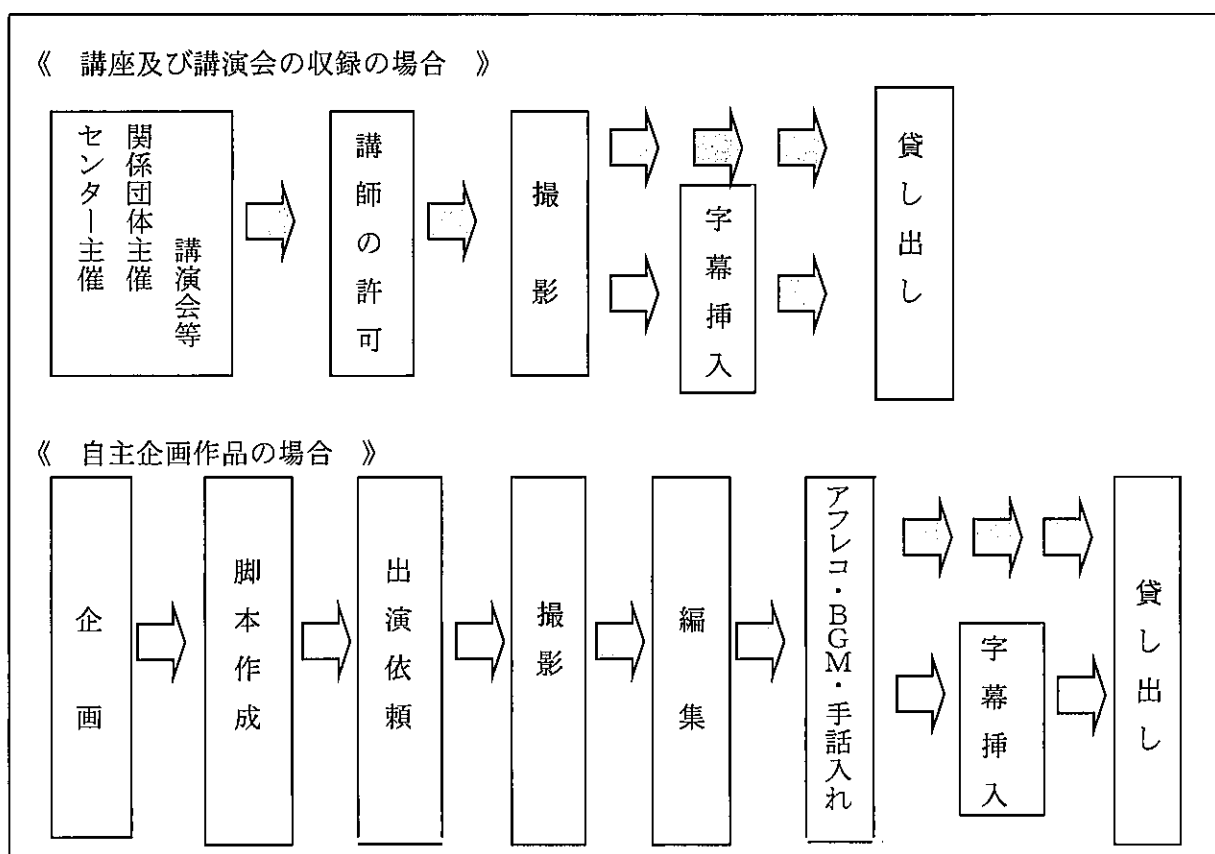
### 3 ビデオライブラリー

情報提供の一つとして、自主企画作品や講演収録などの制作を行うとともに、ライブラリー用に DVD を制作し、聴覚障がい者や手話学習者等に貸し出しを行った。

ICT の発展・普及に合わせて、ホームページでストリーミングでの動画配信を行い、聴覚障がい者へ手話での情報提供、聴覚障がいの普及啓発情報等を制作し、配信した。新型コロナウイルスに関連する情報も動画配信した。事業等のオンライン実施にともない、配信番組の撮影及び制作も進めた。

ロビーにあるテレビでの DVD 視聴及び聴覚障害者情報受信装置の視聴を行った。

また、関係団体等の番組制作等にも協力した。



#### (1) ビデオ制作

聴覚障がい者への支援のための情報発信、県民への聴覚障がい、聴覚障がい者への理解促進のための情報発信として番組を制作した。

ビデオライブラリーでの情報発信として、講座収録、字幕制作、自主企画作品の制作を行った。また、ストリーミング配信のために、聴覚障がい者が日常生活に必要な情報を得やすくするための番組、手話への興味関心を普及するための番組、聴覚障がいや聴覚障がい者の理解を普及啓発する番組等の制作を行った。オンラインで実施する研修会等の番組、教材等も制作した。

ア 制作内訳

区 分	内 容	タイトル数	本 数
ライブラリー用	講座撮影	5	15
	字幕制作	6	12
	自主企画作品	5	21
ストリーミング配信用	手話語り	12	12
	生活関連情報	26	26
	啓発動画	5	5
	子ども向け動画	6	6
	その他	2	2
教材等（配信含）		18	18
合 計		85	117

※ 「子ども向け動画」は、「みる劇場」及び「おしえて！先輩」等

※ 「その他」は、「年末の挨拶」、「年始の挨拶」

イ 内容別

区 分		タイトル数	本数
講座 撮影	令和5年度神奈川県要約筆記者養成講習会共通講義	3	9
	令和5年度神奈川県三者共催要約筆記者研修会	1	3
	神奈川県要約筆記協会創立30周年記念講演会	1	3
字幕 制作	令和5年度神奈川県要約筆記者養成講習会共通講義	3	6
	令和5年度神奈川県三者共催要約筆記者研修会	1	2
	神奈川県要約筆記協会創立30周年記念講演会	1	2
	令和5年度「手話語り」総集編	1	2
自主 企画 作品	わたしの思い出写真館	2	6
	令和5年度「手話語り」総集編	1	4
	令和5年度手話通訳者養成講習会「通訳Ⅰ」受講者選考試験問題参考解答	1	10
	「目で聴くテレビ」提供番組「ご当地検定（神奈川県）」	1	1
手話 語り	初めて手話を覚えたとき、趣味はスキー、全国ろうあ者大会、母とのコミュニケーション、会社表彰～その①～、会社表彰～その②～、猫と初めての旅行、料理は楽しい！、巡回ミニデイサービス、ハマっている事～その①～、ハマっている事～その②～、日帰り自転車旅行	12	12

生活 関連 情報	努力義務化！自転車乗車時のヘルメット！、黄砂って何？、 ゴールデンウィークを楽しく過ごすには？、コロナが5類に！ 何が変わるの？、食中毒を防ぐには？、線状降水帯に注意！！、 梅雨時はイワシがおいしいの？、「夜の熱中症」に注意！、 「ヘルパンギーナ」が流行っています。注意しましょう！、 停電への備え、電気・ガス代の助成延長、寒暖差疲労って知って る？、秋も食中毒に注意しましょう！、アーバンベアって知っ てる？、良い睡眠で、からだもこころも健康に！、ドライシンド ロームって知ってる？、生成 AI って何？、「トコジラミ」を持 ち込まない！、カキの「生食用」と「加熱用」何が違うの？、 「おみくじ」の吉凶の順位は？、「義援金」と「支援金」違い分 かりますか、誰もが気持ちよく過ごせる宿泊に～旅行業法改正 ～、「梅にウグイス」ってどういう意味？、あなたの「桜餅」は どっち？、4月から変わります！新型コロナウイルス感染症対 策、水の賞味期限って？	26	26
啓発 動画	聴覚障害者情報提供施設、電話リレーサービス、聴覚障がい者 の日常生活用具、要約筆記について、東京 2025 デフリンピック	5	5
子ども 向け 動画	おしえて！先輩～仕事編～11～、おしえて！先輩～手話通訳者 編 1～、おしえて！先輩～手話通訳者編 2～、おしえて！先輩～ 手話通訳者編 3～、みる劇場・手話単語編（みる①）、みる劇場・ 手話単語編（みる②）	6	6
その他	年末のご挨拶、年始のご挨拶	2	2
教材等 (配信含)	令和 5 年度神奈川県手話通訳者養成講習会「通訳 I」受講者選 考試験問題	2	2
	令和 5 年度市町村意思疎通支援担当者研修会	1	1
	令和 5 年度神奈川県手話通訳者新人研修会	5	5
	令和 5 年度出前コミュニケーション講座	1	1
	令和 5 年度本部手話通訳者研修会	3	3
	令和 5 年度神奈川県要約筆記者認定試験	2	2
	令和 5 年度神奈川県盲ろう者通訳・介助員現任研修会	2	2
	「目で聴くテレビ（センターまつり）」告知映像 「サクラ咲くプロジェクト」説明動画（AI 音声付き）	1 1	1 1
合 計		85	117

(2) ビデオライブラリー

ロビーに、自主制作作品、寄贈・購入作品、字幕ライブラリー共同事業作品等の DVD ケースを配架し、希望番組の貸し出しを行った。貸し出しは登録制とし、登録者に 1 回 3 本まで、15 日間の貸し出しを行った。

ア ビデオライブラリー保有本数

区 分	内 訳		計		
令和 5 年度 新作ビデオ	新作ビデオ (16 タイトル)		48 本	48 本	107 本
	字幕ビデオ ライブラリー 厚生労働省 委託作品等 (無償分)	厚生労働省委託事業 (6 タイトル)	12 本	23 本	
		NHK厚生文化 事業団事業 (4 タイトル)	8 本		
		普及事業作品 (3 タイトル)	3 本		
	寄贈・購入ビデオ (36 タイトル)		36 本	36 本	
既存ビデオ	令和 4 年度末保有ビデオ		4,630 本	2,377 本	2,377 本
	廃棄ビデオ		2,253 本		
令和 5 年度末保有本数合計				2,484 本	

※ 破棄ビデオには、VHS ビデオテープ 2,229 本を含む。

イ 利用登録者数

区 分	登録者数
聴覚障がい者	1,054 人
手話学習者等	2,963 人
団 体	86 団体
合 計	4,017 人 86 団体

ウ 利用本数

区 分	利用数
自主制作	1,101 本
共同事業	105 本
寄贈・購入	176 本
資 料	82 冊
合 計	1,382 本 82 冊



手話語り「料理は楽しい」

③「やっつける」=加熱処理

- ・加熱によって死滅する
- ・食材は加熱しましょう
- ・調理器具は洗浄後に熱湯をかけましょう



情報動画「食中毒を防ぐには？」



エ 利用者数

区 分	人数等
聴覚障がい者	60 人
手話学習者等	591 人
団 体	9 団体
合 計	651 人 9 団体



目で聴くテレビ「ご当地検定」

(3) ストリーミング配信

ホームページから、インターネットによる、手話動画配信を行った。方式はストリーミング配信で、自主企画番組を発信した。

番組は、日常生活に必要な情報等を幅広く配信することで配信本数・動画へのアクセス数の拡大に努めた。

「手話語り」は、聴覚障がい当事者間の情報交換や聴覚障がい理解への普及啓発を目的に、出演者（聴覚障がい者）の経験や思いを手話で自由に語っていただいた番組。また、出演者の手話の記録、保存にも役立てている。

「生活関連情報」は、手話を主な言語として日常生活を営む聴覚障がい者に、手話による情報発信、情報提供を行うことを目的に、社会での話題などを取り上げている番組。新型コロナウイルス関連情報も制作、配信した。

「啓発動画」は、聴覚障がい児者についての理解を、県民に啓発することを目的にした番組。「電話リレーサービス」、「東京 2025 デフリンピック」等を取り上げ、視聴しやすさを考慮し、1タイトル、5分から10分程度の番組として制作、配信した。

「子ども向け動画」は、聴覚障がい児等が手話に親しみ、表現の豊かさや魅力に触れる機会とするとともに、県民にも広く手話への興味、関心を高めることを目的に、日本語の意味と手話表現を分かりやすく伝えた「みる劇場～手話単語編～」と、社会生活を営む聴覚障がい者のエンパワメントを促し若年層の聴覚障がい者が抱く将来への不安の解消や指針の参考にすることを目的に社会で活躍する聴覚障がい者や聴覚障がい者の社会参加に不可欠な手話通訳者にスポットをあてた「おしえて！先輩」を制作、配信した。

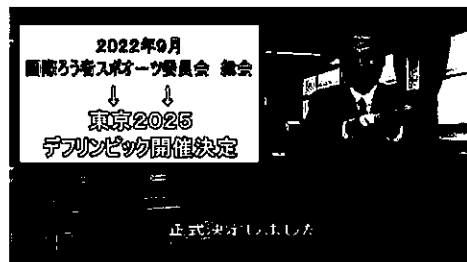
ア 配信番組数

配信番組区分	配信本数
神奈川県聴覚障害者福祉センターガイドテープ	1 本
手話語り	108 本
生活関連情報動画	246 本
啓発動画	25 本
子ども向け動画	32 本
センターからのお知らせ等	19 本

イ ホームページからの動画配信アクセス件数 18,212 件



「おしえて！先輩～手話通訳者編 1～」



啓発動画「東京 2025 デフリンピック」

#### (4) 聴覚障害者情報受信装置の配置及び視聴

障害者総合支援法地域生活支援事業の日常生活用具、聴覚障害者用情報受信装置対象機器である「アイドラゴン 4」をロビーに設置した。

認定特定非営利活動法人障害者放送通信機構が制作、配信している、手話と字幕番組「目で聴くテレビ」及び手話、字幕配信番組といった聴覚障がい者用番組を、インターネット回線を通して視聴することを可能とした。

#### (5) 認定特定非営利活動法人障害者放送通信機構への協力

認定特定非営利活動法人障害者放送通信機構が制作する「目で聴くテレビ」の番組充実等への協力を行った。

ア 提供番組 「ご当地検定（神奈川県）」〔放送日：令和 6 年 3 月 12 日（火）〕

イ スタジオ貸し出し 3 件

#### (6) 撮影・編集協力

関係団体等の撮影、編集に協力した。

ア 手話通訳者養成講座用 DVD 教材作成

イ パブリックコメント

#### (7) 社会福祉法人神奈川聴覚障害者総合福祉協会手話映像制作委員会

手話を主な言語として日常生活及び社会生活を営む聴覚障がい者に、手話による情報発信・情報提供を行うに際し、より適切な手話映像制作を行うために、聴覚障がい当事者からの意見を聞くための「手話映像制作委員会」を書面で実施した。

回 数 1 回

#### 4 講座等

聴覚障がい者への情報提供の一環として、次のとおり講座を開催した。

聴覚障がい者に関わる情報や日常生活に必要な情報などを取り上げ、教養を高め、日常生活での活用、アイデンティティの確立等を支援する教養講座では、東京 2025 デフリンピックに向けて、初心者対象の国際手話の講座を 4 回シリーズ実施した。

ろうあ者相談等から日常的な課題を把握し、社会生活を営んでいくうえで必要な情報提供を行う「社会生活力講座」を日常生活情報、ICT 活用をそれぞれ 5 回シリーズで、合わせて 10 回実施した。基本的には直接手話でコミュニケーションを図れる講師を選定しているが、必要な情報提供をしていくために、内容を重視した講師の選定を行った。

自らの意思を他者に伝える経験、他者の意思を理解する経験する場として「おしゃべりサロン」(単発)を開催。利用者の利便を考慮した地域の開催では、公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会や地域の手話通訳者及び、地域の行政の方々の協力を得、高齢聴覚障がい者の緊急時の対応も視野に入れ、情報交換の場とした。

若年難聴者等が日常生活、就業、就学などでの悩みや思いなどを、同年代の難聴者と語り合うための「難聴者サロン」(単発)を実施し、特定非営利活動法人神奈川県中途失聴・難聴者協会の協力を得た。

移動教室、職業技術研修は、公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会へ委託し実施した。

また、聴覚障がい者向けの情報機器の展示及び貸し出しを行った。

##### (1) 講座

講座名	講師等	期日	定員	受講者数
教養講座(参集型) 「国際手話を学んでみよう! (初心者向け)」	国際手話講師 遠山 満津子 氏	令 5.10.15	15 人	13 人
		令 5.10.29		
		令 5.11.12		
		令 5.11.19		
おしゃべりサロン【単発】 (参集型) ＜会場＞開成町福祉会館 (開成町)	神奈川県聴覚障害者福祉センター 非常勤職員 湊 里香 施設事業課長 行谷 敦子 主 事 佐藤 育子	令 5.6.9	10 人	11 人
おしゃべりサロン【単発】 (参集型)	神奈川県聴覚障害者福祉センター 非常勤職員 湊 里香	令 5.7.22	10 人	6 人
おしゃべりサロン【単発】 (参集型) ＜会場＞秦野市立本町公民館 (秦野市)	神奈川県聴覚障害者福祉センター 非常勤職員 湊 里香 非常勤職員 大谷 秀子	令 5.11.24	10 人	11 人

おしゃべりサロン【単発】 (参集型)	神奈川県聴覚障害者福祉センター 非常勤職員 湊 里香	令 6.1.19	10 人	6 人
難聴者サロン【単発】 (参集型)	特定非営利活動法人 神奈川県中途失聴・難聴者協会 理 事 野田あやか 氏 理 事 古川 実利 氏	令 5.6.25	20 人	16 人
難聴者サロン【単発】 (参集型)	特定非営利活動法人 神奈川県中途失聴・難聴者協会 理 事 野田あやか 氏 理 事 古川 実利 氏	令 5.9.24	20 人	8 人
難聴者サロン【単発】 (参集型)	特定非営利活動法人 神奈川県中途失聴・難聴者協会 理 事 野田あやか 氏 理 事 古川 実利 氏	令 6.1.28	20 人	12 人
社会生活力講座 (日常生活情報) (参集型)	「自分の人生を書こう ～エンディングノート～」 神奈川県聴覚障害者福祉センター 元所長 黒崎 信幸 氏	令 5.5.20	10 人	24 人
	「薬とサプリメントの違いってなに？」 薬剤師 藤澤 一磨 氏	令 5.6.24		
	「スマホカメラできれいな写真を撮ろう！展示に向けて」 公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会 会 員 米島 光子 氏	令 5.8.5		
	「はじめての介護」 身内で介護が必要になったら 看護師 清水 厚子 氏	令 5.10.28		
	「世界遺産を学ぼう」 世界遺産アカデミー 森 卓爾 氏	令 5.11.18		

社会生活力講座 (ICT 活用) (参集型)	「電話リレーサービス使 てる？登録してみよう」 NPO 法人インフォメーシ ョンギャップバスターズ 理事長 伊藤 芳浩 氏	令 5.6.17	10 人	13 人
	「電話リレーサービス登録 したけど、どんな時使う の？」 NPO 法人インフォメーシ ョンギャップバスターズ IT 担当 三原 毅 氏	令 5.7.8		
	「電話リレーサービスと防 災・災害について」 NPO 法人インフォメーシ ョンギャップバスターズ IT 担当 山口タケシ 氏	令 5.8.12		
	「県センターのホームペ ージを見よう、YouTube を見 よう、公式 LINE アカウ ントに登録して情報集めよ う、QR コード使ってみよ う、遠隔通訳って何？」 神奈川県聴覚障害者福祉セ ンター施設長 熊谷 徹	令 5.9.9		
	「IT 座談会」 神奈川県聴覚障害者福祉セ ンター施設長 熊谷 徹	令 5.10.21		
移動教室【単発】(参集) 「マイナンバーのこと知っ てますか？」 ＜会場＞神奈川県聴覚障害 者福祉センター（藤沢市）	藤沢市市民窓口センター 職員	令 5.6.6	12 人	10 人

移動教室【単発】(参集) 「戦国武将のお話&ろう文化のお話」 ＜会場＞(おだわら市民交流センターUMECO) (小田原市)	静岡県手話講師 井上 健 氏	令 5.10.29	30 人	36 人
移動教室【単発】(参集) 「寒さに負けるな！大作戦」 ＜会場＞潮風スポーツ公園管理棟 (三浦市)	運動療法指導士 鈴木 裕子 氏 三浦市健康づくり課職員 2人(保健師、管理栄養士)	令 6.1.14	25 人	16 人
移動教室【単発】(参集) 「台湾の歴史とろう社会の状況」 ＜会場＞あつぎ市民交流プラザ (厚木市)	俳 優 板橋 弥央 氏	令 6.1.28	40 人	39 人
移動教室【単発】(参集) 「あたり前ってなあに？～多様な社会をめざして」 ＜会場＞相模原市総合学習センター (相模原市)	公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会 会 員 加納 晶 氏	令 6.2.10	50 人	17 人
移動教室【単発】(参集) 「歯の健康について」 ＜会場＞茅ヶ崎市勤労市民会館 (茅ヶ崎市)	高橋歯科クリニック 院 長 高橋 恭彦 氏	令 6.2.11	30 人	23 人
移動教室【単発】(参集) 「自転車ルールをもっと知りましょう！」 ＜会場＞ひらつか市民活動センター (平塚市)	平塚市交通政策課職員	令 6.2.25	30 人	21 人
職業技術研修 パソコン操作技術研修 【単発】 (参集型)	特定非営利活動法人 IT サロン藤沢 青木 知恵子 氏 山口 高 氏	令 5.4.11	15 人	9 人
		令 5.4.25	15 人	8 人
		令 5.5.9	15 人	9 人
		令 5.5.23	15 人	5 人

	<会場> 神奈川県聴覚障害者福祉センター	令 5.6.13	15人	6人
		令 5.6.27	15人	3人
		令 5.7.11	15人	5人
		令 5.7.25	15人	2人
		令 5.9.12	15人	5人
		令 5.9.26	15人	3人
		令 5.10.10	15人	4人
		令 5.10.24	15人	3人
		令 5.11.14	15人	7人
		令 5.11.28	15人	5人
		令 6.1.9	15人	6人
		令 6.1.23	15人	3人
		令 6.2.13	15人	4人
		令 6.2.27	15人	1人
	三浦半島パソコンサポート ネット 木曾 利修 氏 沖 睦美 氏 山田 陽平 氏 坂本 知良 氏	令 5.10.19	10人	3人
		令 5.11.2	10人	5人
		令 5.11.16	10人	5人
		令 5.11.30	10人	4人
		令 5.12.14	10人	3人
		令 6.1.11	10人	4人
		令 6.1.25	10人	4人
		令 6.2.8	10人	3人
<会場> 横須賀市総合福祉会館	令 6.2.22	10人	3人	
	令 6.3.14	10人	3人	
職業技術研修理容研修 【単発】 (参集型)	ヘアーサロン YOH 佐藤 洋二 氏 <会場> 神奈川県聴覚障害者福祉センター	令 5.9.5	10人	3人

※ 教養講座「国際手話を学んでみよう！」の延参加者数は、41人

※ 社会生活力講座の延参加者数は、日常生活情報：49人、ICT活用：27人。

(2) 聴覚障がい者向け情報機器の展示及び貸し出し

聴覚障がい者の日常生活の利便性向上のために、聴覚障害者屋内信号装置等の各種の情報機器をロビーに展示するとともに、貸し出しを行った。

ア 聴覚障がい者向け情報機器の展示

展示機器台数 21 機種 24 台

イ 聴覚障がい者向け情報機器の貸し出し

貸し出し件数 62 件



振動体温計



小型回転灯（屋内信号装置）



## 5 手話通訳者・要約筆記者の養成、研修及び認定試験

### (1) 神奈川県手話通訳者養成講習会

厚生労働省手話通訳者養成カリキュラムに準じて開催した。

手話通訳者として必要な知識に関する講義及び手話通訳技術（表現・読み取り）を習得するための養成コースを、【通訳Ⅰ】、【通訳Ⅱ・Ⅲ】に分けて実施した。

【通訳Ⅰ】は、国の基本課程到達目標である、「対象の聴覚障害者の理解を確認しながらであれば手話通訳が可能なレベル。申請手続き等手話以外のコミュニケーション手段が付随する場面で通訳が可能なレベル」の達成に努めている。テキストは社会福祉法人全国手話研修センター発行の「手話通訳Ⅰ」を使用し、カリキュラムは、テキストの1講座を2時間で1回とし、実技講習64時間（32回）、講義8時間（4回）の、合計72時間（36回）としている。実技講習は聴覚障がい者講師、手話通訳者講師の2人とし、講義については、講義内容に応じて聴覚障がい者、手話通訳者およびその他専門の者で行うこととした。

【通訳Ⅱ・Ⅲ】は、国の応用課程達成目標「一部の難しい内容は聴覚障害者の理解の確認が必要であるが、日常場面の手話通訳は基本的に可能なレベル」及び実践課程到達目標「聴覚障害者の理解力に応じた手話通訳が可能なレベル」の達成に努めている。テキストは社会福祉法人全国手話研修センター発行の「手話通訳Ⅱ」、「手話通訳Ⅲ」を使用し、カリキュラムは、テキストの1講座を2時間で1回とし、実技講習80時間（40回）、講義11時間（6回・1部講義は1回1時間）の、合計91時間（46回）としている。実技講習は、聴覚障がい者講師、手話通訳者講師の2人とし、講義については、講義内容に応じて聴覚障がい者、手話通訳者、その他専門の者で行うこととした。

神奈川県手話通訳者養成コースカリキュラム構成

区分	実技講習	講義講習	計
通訳Ⅰ	64時間（32回）	8時間（4回）	72時間（36回）
通訳Ⅱ・Ⅲ	80時間（40回）	11時間（6回）	91時間（46回）
計	144時間（72回）	19時間（10回）	163時間（82回）

※「通訳Ⅱ・Ⅲ」の講義「手話通訳者の健康管理」はテキストに合わせて1時間。

【通訳Ⅰ】受講者選考試験は、県域（政令市、中核市を除く県内）に在住する満18歳以上（令和5年度募集から適用）の者で、市町村での厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラム修了者または手話サークル等での手話学習経験があり、手話で聴覚障がい者と日常会話ができ、県および市町村で手話通訳活動を希望する者を対象とし、手話の読み取り試験、面接試験を実施することとした。試験内容については、厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラムの養成目標「聴覚障害、聴覚障害者の生活及び関連する福祉制度等についての理解と認識を深めるとともに、手話で日常会話を行うに必要な手話語彙及び手話表現技術を習得する。」を踏まえ、基礎課程の到達目標である、「相手の手話が理解で

き、特定の聴覚障害者とならば、手話で日常会話が可能なレベル」を基準に、公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会、神奈川県手話通訳者協会と協議を行うこととした。

【通訳Ⅱ・Ⅲ】受講者選考試験については、県域（政令市、中核市を除く県内）に在住する満 18 歳以上（令和 5 年度募集から適用）の者で、厚生労働省手話通訳者養成カリキュラム対応「手話通訳Ⅰ」修了者（修了見込者を含む）、神奈川県域での手話通訳活動を希望する者（資格取得後、県及び居住の市町村に登録しての手話通訳活動を行う）を対象に、聞き取り手話通訳試験を実施することとした。試験内容については公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会、神奈川県手話通訳者協会と協議を行うこととした。

厚生労働省手話通訳者養成カリキュラム修了の見極め試験である、手話通訳者全国統一試験を実施した。今までの【通訳Ⅱ・Ⅲ】修了者および他地域での厚生労働省手話通訳者養成カリキュラム修了者を対象とした。

神奈川県手話通訳者として認定するための見極め試験である神奈川県手話通訳者認定試験（小論文・面接）を実施した。その合格者は、神奈川県の手話通訳者として必要な知識を学ぶための合格者研修の受講により、神奈川県の手話通訳者として認定された。

実施にあたっては、公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会及び神奈川県手話通訳者協会との協議を行いその協力を得るとともに、認定試験等については、神奈川県手話通訳者試験委員会にて協議を行い実施した。

なお、年度を通して、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じて実施した。

#### ア 養成コース

【通訳Ⅰ】、【通訳Ⅱ・Ⅲ】の 2 コースを実施した。

#### 【通訳Ⅰ】

養成コース名	期 間	回数	定員	申込者数	受講者数	修了者数
令和 4 年度開始 【通訳Ⅰ】	令和 5 年 4 月 5 日 ～令和 5 年 11 月 8 日 (全 36 回のうち、 第 9 回～36 回)	28 回 (参集：26 回) (参集・OL 併用：2 回)	20 人	52 人	11 人	11 人
令和 5 年度開始 【通訳Ⅰ】	令和 6 年 1 月 30 日 ～令和 6 年 3 月 26 日 (全 36 回のうち、 第 1 回～8 回)	8 回 (参集：8 回)	20 人	71 人	12 人	12 人

【通訳Ⅱ・Ⅲ】

養成コース名	期 間	回数	定員	申込者数	受講者数	修了者数
令和 4 年度開始 【通訳Ⅱ・Ⅲ】	令和 5 年 4 月 4 日 ～令和 5 年 11 月 28 日 (全 46 回のうち、 第 17 回～第 46 回)	30 回 (参集：29 回) (参集・OL 併用：1 回)	20 人	11 人	10 人	10 人
令和 5 年度開始 【通訳Ⅱ・Ⅲ】	令和 5 年 11 月 29 日 ～令和 6 年 3 月 27 日 (全 46 回のうち、 第 1 回～第 15 回)	15 回 (参集：14 回) (参集・OL 併用：1 回)	20 人	11 人	11 人	11 人

なお、新型コロナウイルス陽性者かつ未発症者で参集型に参加できない者を対象に、オンライン配信も行った。また、講師が体調不良のため参集型で指導できない時は、直前の事態により代替講師を確保することが困難なため、講師のみオンラインで対応したケースもあった。

※ 「OL」は、オンラインでの実施。

※ 令和 4 年度開始【通訳Ⅰ】

- ・申込者数は、令和 4 年度実施の【通訳Ⅰ】受講者選考試験「手話の読み取り試験」受験者数。
- ・定員には、相模原市、横須賀市を含む。
- ・延受講者数 302 人。相模原市、横須賀市受講者を含めた総延受講者数は 437 人。
- ・相模原市、横須賀市在住者を含めた総申込者数は 69 人、総受講者数は 16 人、総修了者数は 16 人。

※ 令和 5 年度開始【通訳Ⅰ】

- ・申込者数は、令和 5 年度実施の【通訳Ⅰ】受講者選考試験「手話の読み取り試験」受験者数。
- ・定員には、相模原市、横須賀市を含む。
- ・修了者数は、第 8 回までの修了者数。
- ・延受講者数 92 人。相模原市、横須賀市在住者を含めた総延受講者数は 138 人。
- ・相模原市、横須賀市在住者を含めた総申込者数は 82 人。

※ 令和 4 年度開始【通訳Ⅱ・Ⅲ】

- ・申込者数は、令和 4 年度実施の【通訳Ⅱ・Ⅲ】受講者選考試験「聞き取り手話表現試験」受験者数。
- ・定員には、相模原市、横須賀市を含む。
- ・延受講者数 289 人。相模原市、横須賀市在住者を含めた総延受講者は 437 人。
- ・相模原市、横須賀市在住者を含めた総申込者数は 17 人、総受講者数は 15 人、総修

了者数は 15 人。

※ 令和 5 年度開始【通訳Ⅱ・Ⅲ】

- ・ 申込者数は、令和 5 年度実施の【通訳Ⅱ・Ⅲ】受講者選考試験「聞き取り手話表現試験受験者数。
- ・ 定員には、相模原市、横須賀市を含む。
- ・ 修了者数は、第 15 回までの修了者数。
- ・ 延受講者数 160 人。相模原市、横須賀市在住者を含めた総延受講者数は 228 人。
- ・ 相模原市、横須賀市在住者を含めた総申込者数は 16 人
- ・ 総受講者数、総修了者数はいずれも 16 人。

※ オンラインの総実施回数は 4 回（うち 1 回は講師のみ OL）、延受講人数は 2 人、相模原市、横須賀市在住者を含めた総延受講人数は 3 人。

## イ 試験

【通訳Ⅰ】および【通訳Ⅱ】受講者を選考するため、【通訳Ⅰ】の選考試験においては手話の読み取り試験および面接試験を実施した。また【通訳Ⅱ・Ⅲ】選考試験において、聞き取り試験を実施した。

神奈川県の手話通訳者を認定するため、厚生労働省手話通訳者養成カリキュラムを修了した者を対象に令和 5 年度手話通訳者全国統一試験を実施した。また手話通訳者全国統一試験合格者および手話通訳士を対象に、令和 6 年 3 月に神奈川県手話通訳者認定試験（小論文・認定試験）を実施した。

なお、神奈川県手話通訳者認定試験においては、川崎市在住者の手話通訳者全国統一試験合格者等を受け入れている。

試験	日程	申込者	受験者	合格者
令和 5 年度開始【通訳Ⅰ】 手話の読み取り試験	令和 5 年 12 月 12 日（火）	71 人	70 人	24 人
令和 5 年度開始【通訳Ⅰ】 面接試験	令和 6 年 1 月 16 日（火）	24 人	23 人	13 人
令和 5 年度開始 【通訳Ⅱ・Ⅲ】聞き取り試験	令和 5 年 11 月 11 日（土）	11 人	11 人	11 人
手話通訳者全国統一試験	令和 5 年 12 月 2 日（土）	27 人	25 人	7 人
令和 5 年度 神奈川県手話通訳者認定試験	令和 6 年 3 月 23 日（土）	10 人	10 人	9 人

※ 令和 5 年度開始【通訳Ⅰ】手話の読み取り試験の、相模原市、横須賀市を含めた、総申込者数は 82 人、総受験者数は 81 人、総合格者数は 31 人。

※ 令和 5 年度開始【通訳Ⅰ】面接試験の、相模原市、横須賀市を含めた、総申込者数

は 31 人、総受験者数は 30 人、総合格者数は 19 人。

- ※ 令和 5 年度開始【通訳Ⅱ・Ⅲ】聞き取り試験の、相模原市、横須賀市を含めた、総申込者数は 16 人、総受験者数は 16 人、総合格者数は 16 人。
- ※ 手話通訳者全国統一試験の、相模原市、横須賀市を含めた、総申込者数は 36 人、総受験者数は 34 人、総合格者数は 10 人。
- ※ 令和 5 年度神奈川県手話通訳者認定試験の、相模原市、横須賀市、川崎市を含めた、総申込者数は 16 人、総受験者数は 14 人、総合格者数は 12 人。

#### ウ 合格者研修

神奈川県手話通訳者認定試験合格者を対象に、合格者研修を行った。

講義名	日程	受講者数
聴覚障害者が求める手話通訳者像	令和 6 年 3 月 30 日 (土)	9 人
神奈川県の手話通訳者として	令和 6 年 3 月 30 日 (土)	
県の手話通訳制度および登録と制度について	令和 6 年 3 月 30 日 (土)	

- ※ 延受講者数は 27 人。
- ※ 相模原市、横須賀市、川崎市を含む総受講者数は 12 人。総延受講人数は 36 人。

#### エ 認定式

県知事名による手話通訳者認定証を交付した。

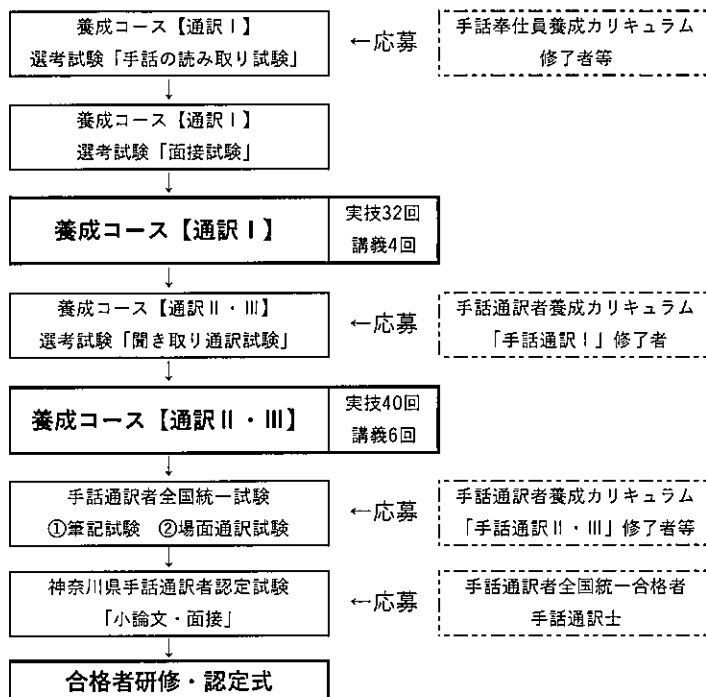
認定式	認定者数
令和 6 年 3 月 30 日 (土)	9 人

- ※ 相模原市、横須賀市、川崎市を含めた総認定者数は 12 人。

(備考) 認定手話通訳者数 (地域別)

市町村名	各認定者数	認定者数	総認定者数
鎌倉市	1 人	9 人	12 人
藤沢市	2 人		
小田原市	1 人		
茅ヶ崎市	1 人		
逗子市	2 人		
秦野市	1 人		
葉山町	1 人		
横須賀市	2 人	2 人	
川崎市	1 人	1 人	

オ 神奈川県手話通訳者養成講習会及び認定の流れ



カ 神奈川県手話通訳者試験委員会

実施日等	主な協議内容	参加人数
令 5.7.28 (参集)	神奈川県手話通訳者養成講習会の実施及び 各試験についての協議等	5人
令 5.9.22 (参集)		4人
令 5.10.17 (参集)		5人
令 6.1.5 (参集)		5人
令 6.2.9 (参集)		5人

- ・ 構成団体 公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会  
神奈川県手話通訳者協会  
社会福祉法人神奈川県聴覚障害者総合福祉協会
- ・ 事務局 当センター

## (2) 神奈川県要約筆記者養成講習会

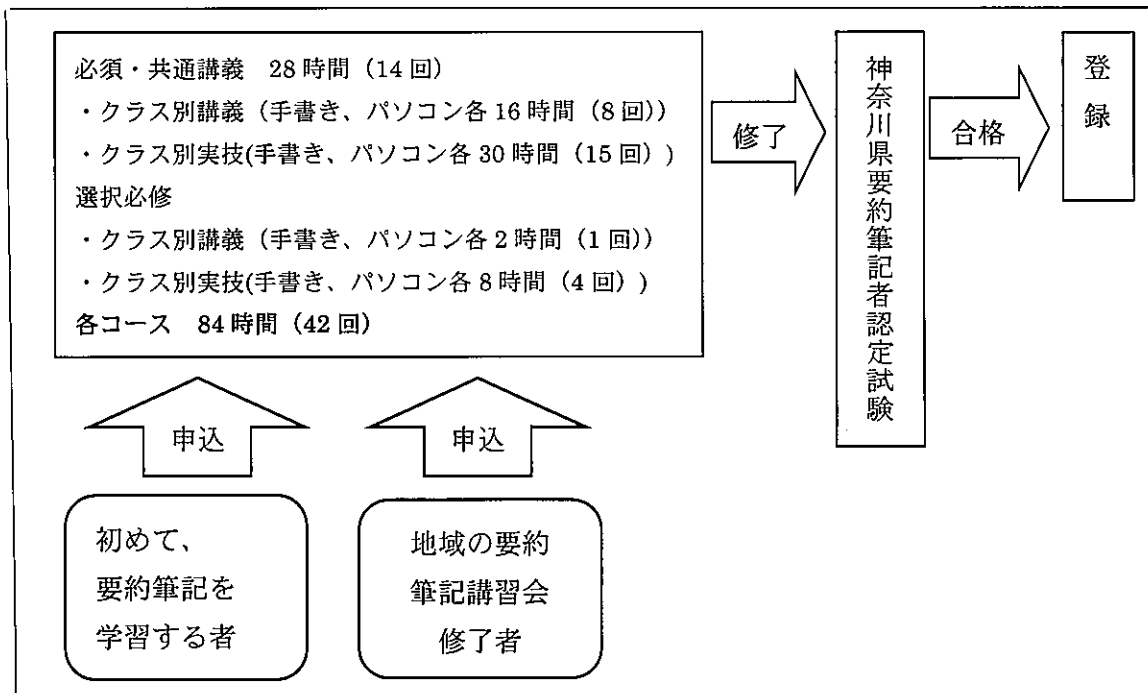
厚生労働省要約筆記者養成カリキュラムに準じて開催した。

手書き要約筆記者、パソコン要約筆記者の養成を行い、国の養成目標「聴覚障害、聴覚障害者、とりわけ中途失聴・難聴者の生活及び関連する福祉制度や権利擁護、対人援助等についての理解と認識を深めるとともに、難聴者等の多様なニーズに対応できる要約筆記を行うに必要な知識及び技術を習得する。」の達成に努めた。

カリキュラムは、2時間を1回とした。必修科目は、聴覚障がい、要約筆記、社会福祉、日本語等の基礎的な知識等の習得を図るための、手書き要約筆記、パソコン要約筆記両クラス合同の共通講義（28時間：14回）、手書き要約筆記、パソコン要約筆記の各クラスに特化した技術、知識の習得、定着を図るクラス別講義（各16時間：各8回）、クラス別実技（各30時間：各15回）とした。選択必修科目は、手書き要約筆記に特化した「二人書きⅠ」、パソコン要約筆記に特化した「連係入力Ⅰ」のクラス別講義（各2時間：各1回）、手書き要約筆記に特化した「二人書きⅡ」等、パソコン要約筆記に特化した「連係入力Ⅱ」等のクラス別実技（各8時間：各4回）とした。

手書き要約筆記、パソコン要約筆記の両クラスとも、必修科目（74時間：37回）、選択必修科目（10時間：5回）の計84時間：42回を受講することとした。

定員は、要約筆記初心者を対象とした募集では、手書き要約筆記クラス、パソコン要約筆記クラスとも各13人。地域の要約筆記講習会修了者を対象とした募集では手書き要約筆記クラス、パソコン要約筆記クラスとも各5人とした。手書き要約筆記クラス、パソコン要約筆記クラスとも、定員の合計は各18人とし募集を行った。しかし、手書き要約筆記クラス、パソコン要約筆記クラスとも応募が多数であったため、調整を重ねて、総受講者を各クラス20人とした。



また、地域の要約筆記講習会修了者は一定の講習を免除し、講習会の中から受講を認めた。

実施にあたっては、特定非営利活動法人神奈川県中途失聴・難聴者協会及び神奈川県要約筆記協会との協議を行い、その協力を得て行った。特定非営利活動法人神奈川県中途失聴・難聴者協会会員が実技アシスタントに加わるとともに、講習会を見学した。

#### 神奈川県要約筆記者養成講習カリキュラム構成

区 分		講習時間（講習回数）
必修科目	共通講義	28時間（14回）
	クラス別講義	16時間（8回）
	クラス別実技	30時間（15回）
選択必修科目	クラス別講義	2時間（1回）
	クラス別実技	8時間（4回）
計		84時間（42回）

#### ア 養成講習会

##### （ア）期間等

期 間	クラス	時間	曜 日	受講者	修了者
令 5.4.21～令 6.1.26	手書き	10:00～12:00	金曜日	20人	18人
	パソコン	13:30～15:30	金曜日	20人	14人

※ ただし、共通講義は 10:00～12:00 または 13:30～15:30

※ 申込者は、手書き要約筆記クラス 30人、パソコン要約筆記クラス 20人（含追加募集）

※ 手書き要約筆記クラスは 1月 19日（金）に終了。パソコン要約筆記クラスは、台風の影響による振替講習を 1月 26日（金）に実施。

※ 延受講者 1,326人・延見学者 302人。うちオンラインでの受講者 0人・見学者 48人。

##### （イ）共通講義

全講義を参集方式で実施した。見学者は、オンライン方式での見学も対応した。

回	期 日	テ ー マ	講 師
第 1 回	令 5.4.21	聴覚障害の基礎知識（1）	横浜国立大学教育人間科学部 名誉教授 中川 辰雄 氏
第 2 回	令 5.4.28	要約筆記の基礎知識 I（1）	特定非営利活動法人 神奈川県中途失聴・難聴者協会 理 事 石川 美奈 氏
第 3 回	令 5.4.28	要約筆記の基礎知識 I（2）	神奈川県要約筆記協会 会 員 轡田 京子 氏



回	期 日	テ ー マ	講 師
第 9 回	令 5.6.16	対人援助 I (1)	特定非営利活動法人 神奈川県中途失聴・難聴者協会 理事長 森 友彦 氏
第 10 回	令 5.6.16	聴覚障害の基礎知識 (2)	特定非営利活動法人 神奈川県中途失聴・難聴者協会 副理事長 古川 実利 氏
第 11 回	令 5.6.23	社会福祉の基礎知識 I (1)	弁護士 松田 峻 氏
第 12 回	令 5.6.23	話しことばの基礎知識 (1)	世田谷福祉専門学校 手話通訳学科 元非常勤講師 根岸 亜紀 氏
第 17 回	令 5.7.28	日本語の基礎知識 (1)	鎌倉女子大学児童学部児童学科 准教授 齋木 信也 氏
第 18 回	令 5.7.28	日本語の基礎知識 (2)	鎌倉女子大学児童学部児童学科 准教授 齋木 信也 氏
第 19 回	令 5.8.4	社会福祉の基礎知識 I (2)	神奈川県聴覚障害者福祉センター 常勤嘱託職員 安田 芳正
第 20 回	令 5.8.4	対人援助 I (2)	桜美林大学健康福祉学群 准教授 谷内 孝行 氏
第 35 回	令 5.12.1	伝達の学習 I	しらかばこども家庭支援ステーション 副所長 小林 正稔 氏
第 41 回	令 6.1.19	社会福祉の基礎知識 I (3)	特定非営利活動法人 神奈川県中途失聴・難聴者協会 理事長 森 友彦 氏 公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会 会 員 多賀谷 正子 氏
第 42 回	令 6.1.19	要約筆記者のあり方 I	神奈川県要約筆記協会 会 員 神農 さち江 氏

(ウ) 要約筆記者養成講習会受講希望者事前説明会

次年度神奈川県要約筆記者養成講習会受講希望者を対象に、要約筆記、難聴等についての認識を深め、目的意識を持って講習会に臨むために開催した。

日 時 令和 6 年 3 月 22 日 (金) 13 : 30 ~ 15 : 30

方 法 参集方式

内 容

- ・神奈川県要約筆記者養成講習会の概要
- ・難聴について、難聴者体験
- ・要約筆記について、要約筆記体験

参加人数 32人（手書き14人、パソコン18人）

(エ) 神奈川県要約筆記者養成委員会

実施日等	主な協議内容	参加人数
令 5.5.18（参集）	神奈川県要約筆記者養成講習会の 実施及び各試験についての協議等	4人
令 5.8.31（参集）		7人
令 5.12.7（参集）		6人

- ・構成団体 特定非営利活動法人神奈川県中途失聴・難聴者協会  
神奈川県要約筆記協会  
社会福祉法人神奈川県聴覚障害者総合福祉協会
- ・事務局 当センター

イ 認定試験

県及び市町村において、聴覚障がい者の意思疎通支援のための要約筆記者派遣を担う神奈川県認定要約筆記者（手書き要約筆記者、パソコン要約筆記者）として、必要な知識、技術を有しているかを審査することを目的に、神奈川県要約筆記者認定試験を行った。

試験は、学科試験と実技試験を行った。学科試験としては、要約筆記者として必要な基礎知識、専門知識の習得度を測定する共通学科試験、手書き要約筆記者またはパソコン要約筆記者として必要な専門知識の習得度を測定する専門学科試験を行った。実技試験としては、手書き要約筆記者またはパソコン要約筆記者として必要な個別の専門技術の習得度を測定する個別実技試験、手書き要約筆記者またはパソコン要約筆記者として必要なチームでの連携等の専門技術の習得度を測定するチーム実技試験を行った。

認定試験問題は、神奈川県要約筆記者認定試験問題作成委員会を設け、作成した。

実施にあたっては、特定非営利活動法人神奈川県中途失聴・難聴者協会、神奈川県要約筆記協会と協議を行った。

(ア) 試験

令和5年度神奈川県要約筆記者養成講習会修了者等を対象に、試験を実施した。

試験名	実施日	申込人数	受験人数	合格者数
学科試験	令 6.2.2	32人	31人	28人
手書き要約筆記実技試験	令 6.2.9	18人	17人	14人
パソコン要約筆記実技試験	令 6.2.16	15人	15人	11人

- ※ 相模原市、横須賀市を含めた総申込人数は 44 人。  
うち手書き受験者 24 人、パソコン受験者 20 人。
- ※ 相模原市、横須賀市を含めた総受験者数 43 人、  
うち手書き受験者 23 人、パソコン受験者 20 人。
- ※ 相模原市、横須賀市を含めた総合格者数 34 人、  
うち手書き受験者 19 人、パソコン受験者 15 人。

(イ) 認 定

学科試験及び実技試験の両試験に合格した者を、神奈川県要約筆記者認定試験合格者（手書き要約筆記者、パソコン要約筆記者）とし、神奈川県認定要約筆記者（手書き要約筆記者、パソコン要約筆記者）に認定した。

a 合格者数

区 分	合格人数
手書き要約筆記者	13 人
パソコン要約筆記者	11 人

- ※ 手書き要約筆記者は、相模原市合格者 6 人を含む総合格者数は 19 人。
- ※ パソコン要約筆記者は、相模原市合格者 4 人を含む総合格者数は 15 人。
- ※ 相模原市を含めた総合格者数 34 人。横須賀市合格者は 0 人。

b 認定式

実施日	区 分	認定者数
令 6.3.29	手書き要約筆記者	13 人
	パソコン要約筆記者	11 人

- ※ 相模原市および横須賀市からの委託事業分を含めた総認定者数 34 人。

c 地域別神奈川県認定要約筆記者数（総認定者数）

(a) 手書き要約筆記者

市町村名	認定人数		
平塚市	1 人	13 人	19 人
藤沢市	2 人		
逗子市	1 人		
三浦市	1 人		
厚木市	1 人		
海老名市	1 人		
綾瀬市	2 人		
南足柄市	1 人		
葉山町	1 人		

二宮町	1人		
湯河原町	1人		
相模原市	6人	6人	

(b) パソコン要約筆記者

市町村名	認定人数		
鎌倉市	1人	11人	15人
藤沢市	2人		
逗子市	6人		
座間市	1人		
葉山町	1人		
相模原市	4人	4人	

(ウ) 神奈川県要約筆記者認定試験問題作成委員会（すべて参集型）

実施日等	主な協議内容	参加人数
令 5.6.22	令和 5 年度神奈川県要約筆記者認定試験 問題の作成について	4人
令 5.7.20		4人
令 5.9.7		4人
令 5.10.12		4人
令 5.11.2		4人
令 5.11.30		4人
令 5.12.14		4人
令 6.1.11		4人
令 6.1.25		3人

(3) 手話通訳者、要約筆記者の技術研修等

ア 手話通訳者研修

(ア) 手話通訳者研修会

手話通訳者の資質向上のために主に講義研修として、全てを参集型として講義 2 回と実技 1 回の研修を行った。

講義研修では、誰もが平等に情報を得られる社会の実現のため情報アクセシビリティと、聴覚障がい者の高齢化に伴う傾聴についてを学び、実技研修では、毎年のアンケートに開催の要望が多くある医療に関する手話表現や通訳者としての対応方法を聴覚障がい者からのアドバイスを受けながら実施した。

期 日	テ ー マ	講師等	定 員	参加人数
令 5.11.19	実技研修 「医療における手話表現や通訳方法について」	公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会 会 員 高橋 光義 氏 中沢 勉 氏 矢野 忠雄 氏	70 人	40 人
令 6.2.3	講 義 「情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法&障害者権利条約について ～誰一人取り残さない～」	一般財団法人全日本ろうあ連盟情報コミュニケーション委員会 委員長 中西 久美子 氏	70 人	55 人
令 6.3.9	講 義 「高齢聴覚障がい者の介護や傾聴について」	神奈川県聴覚障害者福祉センター 施設長 熊谷 徹 一般社団法人日本聴覚障害者ソーシャルワーカー協会 副会長 稲 淳子 氏	70 人	28 人

※ 延参加者数 123 人。

(イ) 手話通訳者技術研修会（委託先：神奈川県手話通訳者協会）

手話通訳者の技術向上のために、主に技術研修として、参集で 13 回行った。

その内、「読み取り」実技研修を 5 回開催した。実技研修の「聞き取り」は、話者の気持ちを深く理解し、その想いをしっかりと伝えられることや、テレビジョン放送の手話表現を、体験と録画を基に、参加者で手話表現技術の検証を行った。実技研修の「読

み取り」は、スポーツ及び高齢ろう者の手話の読み取りを研鑽し、実技研修の事例検討&ロールプレイでは医療場面を取り上げ、今後の通訳活動に活かすことを目的に通訳方法や対応方法には様々な選択肢があることを共有した。講義は今回で3回目となるデマンドコントロール、ろうあ運動や歴史的な視点から手話通訳の役割や社会的使命について学ぶ研修を実施し手話通訳者として必要な知識や技術の向上に努めた。

期 日	テ ー マ	講 師 等	定員	参加人数
令 5.6.17	実技研修 「聞き取り」	公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会会員	70人	47人
令 5.7.8	実技研修 「聞き取り」	神奈川県手話通訳者協会会員	70人	23人
令 5.7.22	実技研修 「読み取り」	公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会会員	70人	33人
令 5.8.26	ブロック実技研修 「読み取り」 藤沢会場	神奈川県手話通訳者協会会員	70人	13人
令 5.8.26	ブロック実技研修 「読み取り」 大和会場	神奈川県手話通訳者協会会員	70人	19人
令 5.8.27	ブロック実技研修 「読み取り」 小田原会場	神奈川県手話通訳者協会会員	30人	11人
令 5.8.27	ブロック実技研修 「読み取り」 横須賀会場	神奈川県手話通訳者協会会員	30人	14人
令 5.9.10	講 義 「デマンドコントロール スキーマをマスターしよう」	日英通訳、手話通訳 高木 真知子 氏	70人	33人
令 5.11.12	実技研修 「事例検討&ロールプレイ 医療場面」	公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会会員	70人	30人
令 6.1.13	実技研修 「読み取り」	公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会会員	70人	21人

令 6.2.10	実技研修 「聞き取り」	公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会会員	70人	43人
令 6.3.2	講義 「歴史が示す手話通訳、通訳者の役割、社会的使命」	ひょうご聴覚障害者福祉事業協会 元理事長 大矢 暹 氏	70人	68人
令 6.3.13	実技研修 「聞き取り」	公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会会員	70人	25人

※ 延参加者数 380人。

#### (ウ) 手話通訳者新人研修会

令和4年度神奈川県認定手話通訳者の研修（以下1年目研修）の対象者は10人、全4回の研修。令和3年度神奈川県認定手話通訳者の研修（以下2年目研修）の対象者は7人、全2回。計6回の研修を行った。

1年目研修は、派遣現場を想定した模擬会議の実習を含め、手話通訳者としての動きや個々の課題を明らかにし、今後の研鑽につなげるための研修を行った。2年目研修は、登録後の手話通訳活動を振り返り、個々の課題を検証するための研修を行った。

1年目研修欠席者への対応は、映像を用いた実技研修1回（参集）、レポート提出後に研修映像視聴2回（オンライン）計3回の代替研修をもって研修参加とした。

2年目研修欠席者への対応は、レポート提出後に研修映像視聴が1回、課題提出1回、計2回の代替研修をもって研修参加とした。

研修実施にあたっては、公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会、神奈川県手話通訳者協会と協議の上、協力を得て実施した。打合せ会議は令和5年4月12日（水）に行った。

延受講者数は51人（代替研修：来所2人・オンライン3人・課題提出1人を含む）と欠席者3人であった。

	回	期 日	テーマ	講師・アシスタント	参加人数
(1年目研修)	1	令 5.6.3	現場に行く前の準備～通訳者としての心構え～ (参集型)	公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会 会 員 高山 久子 氏 神奈川県手話通訳者協会 会 長 櫻井 いづみ 氏	10人
	2	令 5.6.24	模擬会議場面実習 ・DVD作成委員会打ち合わせ会議 (参集型)	神奈川県手話通訳者協会 会長 櫻井 いづみ 氏 アシスタント 公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会 会 員 高山 久子 氏	10人 〔欠席者向け代替研修2人(参集)を含む〕

(2年目研修)				会 員 原 佐登美 氏 会 員 嵩 良美 氏 神奈川県手話通訳者協会 副会長 山本 恵三子 氏	
	3	令 5.9.30	現場終了後の気づき ～第2回模擬会議 場面を振り返って ～(参集型)	公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会 会 員 高山 久子 氏 神奈川県手話通訳者協会 会 長 櫻井 いづみ 氏	10人 〔欠席者向け 代替研修1人 (参集)を含 む〕
	4	令 5.12.23	報告書の書き方 (参集型)	神奈川県聴覚障害者福祉センター 施設事業係長 山本 隆志 本部事業課主事 杉本 晃康	10人 〔欠席者向け 代替研修1人 「OL」を含 む〕
	5	令 5.1.20	登録後の振り返り ～通訳者に求めら れるスキルや役割 の再確認～ (参集型)	公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会 会 員 湊 里香 氏 神奈川県手話通訳者協会 副会長 山本 恵三子 氏	6人 〔欠席者向け 代替研修1人 「OL」を含 む〕 欠席1人
	6	令 5.2.25	実技研修 ～2年目の通訳者 に必要な技術～ (参集型)	公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会 会 員 湊 里香 氏 神奈川県手話通訳者協会 副会長 山本 恵三子 氏	5人 〔欠席者向け 代替研修1人 「レポート」 を含む〕 欠席 2人

※ 「OL」は、オンラインでの受講者数。内数。

## イ 要約筆記者研修

### (ア) 要約筆記者研修会

登録要約筆記者を対象に、要約筆記者の資質向上のための研修会を行った。

期 日	テ ー マ	講 師	参加人数
令 5.9.2	手話勉強会での要約筆 記、よりよい方法を話 し合ってみませんか	神奈川県要約筆記協会 会 長 関根 陽子 氏 事務局 熊谷 和枝 氏	42人



(イ) 三者共催要約筆記者研修会

特定非営利活動法人神奈川県中途失聴・難聴者協会、神奈川県要約筆記協会及び当センターの三者で、要約筆記者の資質向上のための研修会を開催した。

新型コロナウイルス感染拡大予防対策として会場参加者数に定員を設け、オンライン会議ソフトでの同時配信を行なった。配信視聴による参加者で、登録更新研修として参加する者は終了後にレポートを提出することで講義研修参加とした。

期 日	テ ー マ	講 師	定 員	参加人数
令 5.8.27	難聴という障害の受容について ～聞こえない苦しみを乗り越えるために必要なこと～	心療耳科医師 杉浦 彩子 氏	参集 60人	93人 参集：41人 OL：52人

※ オンラインには、定員を設けていない。

※ 「OL」は、オンライン。参加人数の「参集」、「OL」は、内数。

(ウ) 神奈川県要約筆記者技術研修会（委託先：神奈川県要約筆記協会）

登録要約筆記者を対象に要約筆記者の技術向上のため、主に技術向上のための研修を、参集で、単発で行った。

期 日	テ ー マ	講 師	定 員	参加人数
令 5.6.21	基礎編「機材セッティング(〇HCなど)」(参集) (手書き)	神奈川県要約筆記協会会員	16人	18人
令 5.6.29	基礎編「連係入力」(参集) (PC)	神奈川県要約筆記協会会員	16人	24人
令 5.9.6	要約筆記の三原則(1)(参集) (PC)	神奈川県要約筆記協会会員	16人	11人
令 5.9.13	要約筆記の三原則(2)(参集) (PC)	神奈川県要約筆記協会会員	16人	12人
令 5.11.22	ロール交換と前ロールの方法を忘れていませんか?(1)(参集) (手書き)	神奈川県要約筆記協会会員	16人	8人
令 5.11.22	ロール交換と前ロールの方法を忘れていませんか?(2)(参集) (手書き)	神奈川県要約筆記協会会員	16人	8人
令 6.2.8	前ロールのある現場(1)(参集) (PC)	神奈川県要約筆記協会会員	20人	20人

令 6.2.8	前ロールのある現場(2)(参集) (PC)	神奈川県要約筆記協会会員	20人	20人
令 6.3.3	手話勉強会における情報保障 (1)(参集) (手書き)	神奈川県要約筆記協会会員	20人	14人
令 6.3.8	手話勉強会における情報保障 (2)(参集) (手書き)	神奈川県要約筆記協会会員	20人	12人

※(手書き)は手書き要約筆記者対象。(PC)はパソコン要約筆記者対象。

※ 延参加人数 147人。

#### (エ) 要約筆記者合格者技術研修会

神奈川県要約筆記者認定試験合格者を対象に2コース4回(手書き要約筆記クラス2回、パソコン要約筆記クラス2回)開催した。

各クラスとも、第1回は全体研修、第2回は現場実習を実施した。

実施にあたっては、特定非営利活動法人神奈川県中途失聴・難聴者協会及び神奈川県要約筆記協会の協力を得た。

##### a 手書き要約筆記(全2回。対象人数:17人)

回	期 日	テ ー マ	講 師	参加人数
1	令 5.4.27	派遣現場での対応方法 や注意点等について	神奈川県要約筆記協会 会 員 岡 貞子 氏	16人
2	令 5.5.14	現場実習(特定非営利活 動法人神奈川県中途失 聴・難聴者協会5月例 会)		

※ 延参加人数 31人。

##### b パソコン要約筆記(全2回。対象人数:17人)

回	期 日	テ ー マ	講 師	参加人数
1	令 5.5.7	派遣現場での対応方法 や注意点等について	神奈川県要約筆記協会 会 員 西野 有理 氏	17人
2	令 5.5.20	現場実習(きこえにくい 人のためのコミュニケ ーション講座第2回)		

※ 延参加人数 33人。

(オ) 要約筆記者オンライン派遣勉強会

オンラインでの要約筆記者派遣について、派遣に必要な知識、技術を学び、オンライン派遣の担い手の拡大を図るとともに、学習プログラムの検討、実践を踏まえて、将来のオンライン派遣のための研修体系の確立のために、令和5年度から実施した。

オンライン派遣のためのインターネット接続、パソコン設定等は手書き要約筆記、パソコン要約筆記とも共通点が多いことから、オンライン派遣の概要を含めて、共通での講義として実施した。手書き要約筆記、パソコン要約筆記の実技はそれぞれで実施した。

期 日	内 容	講 師	参加人数
令 5.12.24	共通講義	神奈川県要約筆記協会 会 員 中野 潤子 氏	23 人
令 5.12.26	パソコン要約筆記実技	神奈川県要約筆記協会 会 員 中野 潤子 氏	14 人
令 6.2.29	手書き要約筆記実技	神奈川県要約筆記協会 会 員 岡本 和美 氏	8 人

(カ) 神奈川県要約筆記者登録・派遣説明会

神奈川県要約筆記者認定試験合格者を対象に、登録手続きや派遣の内容、派遣の際の注意事項、登録更新のための研修会受講等の説明と質疑を実施した。

期 日	講 師	受講人数
令 6.3.29	神奈川県聴覚障害者福祉センター 施設事業課主事 田中 佑季 本部事業課非常勤職員 金森 美保	30 人

※ 対象人数：手書き要約筆記 19 人、パソコン要約筆記者 15 人

(キ) 要約筆記者指導者養成研修

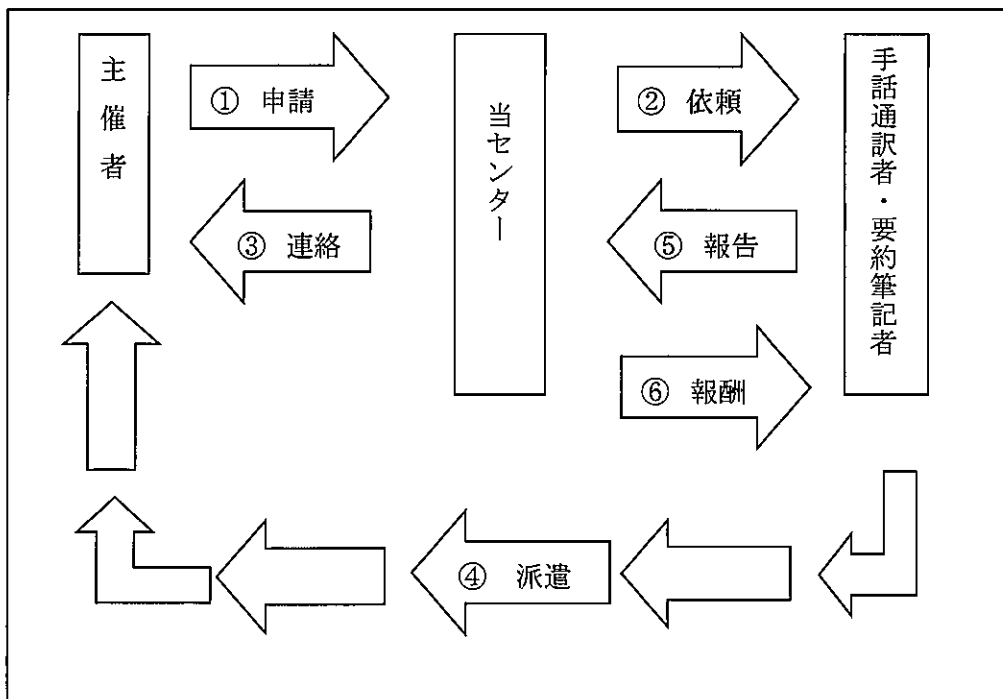
厚生労働省要約筆記者養成カリキュラム通知を受けて実施された研修会に、対象者を推薦し、派遣を行っている。

令和5年度は、特定非営利活動法人神奈川県中途失聴・難聴者協会、神奈川県要約筆記協会とも協議を行ったが、各会の行事と日程が重なり推薦することが難しかったため、派遣は行わなかった。

## 6 手話通訳者・要約筆記者の派遣等

県域を活動範囲とする聴覚障がい者団体、身体障がい者団体、神奈川県福祉部障害福祉課、障害サービス課主催の大会及び会議等に派遣した。

新型コロナウイルス感染拡大予防対策も含めた、オンラインでの手話通訳者、要約筆記者の派遣も行った。



### (1) 派遣等

#### ア 登録者数

(ア) 手話通訳者	205 人	(内、手話通訳士 106 人)						
		(内、県域 168 人 川崎市 37 人)						
(イ) 要約筆記者	172 人	<table border="0"> <tr> <td>内 手書きのみ</td> <td>66 人</td> </tr> <tr> <td>パソコンのみ</td> <td>74 人</td> </tr> <tr> <td>手書き、パソコン</td> <td>32 人</td> </tr> </table>	内 手書きのみ	66 人	パソコンのみ	74 人	手書き、パソコン	32 人
内 手書きのみ	66 人							
パソコンのみ	74 人							
手書き、パソコン	32 人							

#### イ 手話通訳者派遣

区 分	派遣件数	派遣人数
団体派遣	177 件	402 人
主催事業	76 件	123 人
合 計	253 件	525 人

区 分		時間数	合 計
総派遣時間	団体派遣	1,540 時間	1,847 時間
	主催事業	307 時間	

※ 総時間数は、手話通訳者の年間派遣時間の合計時間。ただし、合計時間の30分未満は切り下げ、30分以上は切り上げて表記。

区 分		人 数	合 計
総利用者数	団体派遣	177 人	253 人
	主催事業	76 人	

※ 総利用者数は、団体、機関への派遣のため1派遣申請を1人として表記。

(ア) 団体派遣

県域を活動範囲とする聴覚障がい者団体、身体障がい者団体、神奈川県福祉部障害福祉課等主催の会議等に派遣した。

(イ) 主催事業

当センター主催の各種事業に派遣した。

(ウ) キャンセル数

区 分	件数	人数
未手配及び調整中	0 件	0 人
手配済み	8 件	15 人
派遣者不足	0 件	0 人
計	8 件	15 人

※ 新型コロナウイルス感染症に関するキャンセル 2 件、2 人

(エ) オンラインでの手話通訳派遣件数・人数

区 分	団体派遣		主催事業		合 計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数
会場でのオンライン通訳	14 件	27 人	13 件	24 人	27 件	51 人
拠点でのオンライン通訳	3 件	6 人	0 件	0 人	3 件	6 人
自宅でのオンライン通訳	0 件	0 人	0 件	0 人	0 件	0 人
合 計	17 件	33 人	13 件	24 人	30 件	57 人

※ 「拠点」は、主催者または派遣元が指定した場所。

ウ 要約筆記者派遣

区 分	派遣件数			派遣人数		
	手書き	パソコン	計	手書き	パソコン	計
団体派遣	53件	68件	121件	183人	269人	452人
主催事業	55件	77件	132件	182人	309人	491人
合 計	108件	145件	253件	365人	578人	943人

区 分	総派遣時間			総利用者数		
	手書き	パソコン	計	手書き	パソコン	計
団体派遣	643時間	855時間	1,498時間	53人	68人	121人
主催事業	500時間	874時間	1,374時間	55人	77人	132人
合 計	1,143時間	1,729時間	2,872時間	108人	145人	253人

※ 総時間数は、要約筆記者の年間派遣時間の合計時間。ただし、合計時間の30分未満は切り下げ、30分以上は切り上げて表記。

※ 総利用者数は、団体、機関への派遣のため1派遣申請を1人として表記。

(ア) 団体派遣

県域を活動範囲とする聴覚障がい者団体、身体障がい者団体、神奈川県福祉部障害福祉課等主催の大会及び会議等に派遣した。

(イ) 主催事業

当センター主催の各種事業に派遣した。

(ウ) キャンセル

区 分	件数	人数
未手配及び調整中	0件	0人
手配済み	1件	4人
派遣者不足	0件	0人
計	1件	4人

(エ) オンラインでの要約筆記者派遣件数・人数

区 分	団体派遣				主催事業				合 計			
	手書き		パソコン		手書き		パソコン		手書き		パソコン	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
会 場	0件	0人	2件	8人	5件	20人	27件	104人	5件	20人	29件	112人
拠 点	0件	0人	3件	12人	0件	0人	4件	16人	0件	0人	7件	28人
在 宅	0件	0人	20件	80人	0件	0人	1件	3人	0件	0人	21件	83人
合 計	0件	0人	25件	100人	5件	20人	32件	123人	5件	20人	57件	223人

※ +総合計は、62件、243人。

- ※ 「会場」とは、行事等を行なう会場へ直接赴き要約筆記を実施すること。
- ※ 「拠点」とは、会場がオンラインシステムのみで、主催者または派遣元の用意する情報保障者用の部屋等へ赴き要約筆記を実施すること。
- ※ 「在宅」とは、要約筆記者が各々の自宅からインターネット接続を介してネットワークを組み、要約筆記を実施すること。

#### エ 広域派遣に関する市町村との調整

県内外からの市町村等からの広域派遣における問い合わせについて、必要な調整、支援を行った。

- (ア) 調整依頼市町村数 2市町村
- (イ) 調整件数 28件

#### オ 手話通訳者・要約筆記者派遣懇談会

神奈川県登録手話通訳者・要約筆記者を対象に派遣懇談会を、手話通訳者・要約筆記者の部と分けて、参集で行った。後日ホームページ上に資料を掲載し、情報提供を行った。

##### (ア) 手話通訳の部

- a 日 時 令和5年5月13日(土) 10時00分～12時30分
- b 参加人数 54人

##### (イ) 要約筆記の部

- a 日 時 令和5年5月13日(土) 13時30分～15時50分
- b 参加人数 37人

##### (ウ) 資料項目

- a 手話通訳・要約筆記派遣状況(件数)
- b 頸肩腕健康診断受診状況(受診数)
- c 手話通訳者・要約筆記者派遣運営委員会の状況(回数・内容)
- d 市町村意思疎通支援担当者研修会(回数・内容・件数)
- e 手話通訳者研修の状況(回数・内容・参加人数)
- f 手話通訳者新人研修会の状況(回数・内容)

#### カ 神奈川県手話通訳者・要約筆記者派遣運営委員会

手話通訳者、要約筆記者派遣の円滑な実施及び研修、頸肩腕障害健診などについて関係団体と協議を実施した。

また、手話通訳者、要約筆記者に関する固有の課題については、専門部会を設けて協議を行った。事務局は、当センターが担った。

(ア) 委員会

期 日	内 容	参加人数
令 5.6.29	令和 4 年度事業報告、令和 5 年度事業計画等 (オンライン)	9 人

- ・ 公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会
- ・ 特定非営利活動法人神奈川県中途失聴・難聴者協会
- ・ 神奈川県手話通訳者協会
- ・ 神奈川県要約筆記協会
- ・ 社会福祉法人神奈川県聴覚障害者総合福祉協会

(イ) 専門部会

a 手話通訳専門部会

期 日	内 容	参加人数
令 5.4.13	「設置手話通訳者の役割指針」修正、手話通訳者派遣の課題についての協議等。	5 人
令 5.6.1	設置手話通訳者からのアンケートの確認、手話通訳者派遣の課題についての協議等。	3 人
令 5.7.20	設置手話通訳者からのアンケートの集計、神聴協理事とバッジ協会役員との意見交換について、手話通訳者派遣の課題についての協議等。	5 人
令 5.10.12	聴協理事とバッジ協会役員との意見交換について、今後の流れについて、設置手話通訳の集まりについて、手話通訳者派遣の課題についての協議等。	4 人
令 5.12.14	設置手話通訳者の学習会から、設置手話通訳者指針案の最終稿の作成、今後の流れについて、手話通訳者派遣の課題の協議等。	4 人
令 6.2.8	設置手話通訳者指針案の最終稿の作成、設置手話通訳一覧表の作成及び確認、今後の流れについて、手話通訳者派遣の課題についての協議等。	4 人

- ・ 公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会
- ・ 神奈川県手話通訳者協会
- ・ 社会福祉法人神奈川県聴覚障害者総合福祉協会



b 要約筆記専門部会

期 日	内 容	参加人数
令 5.6.9	令和 4 年度実績報告、要約筆記者派遣の課題、要約筆記者の研修等（オンライン）	4 人
令 5.9.5	要約筆記者派遣の課題、要約筆記者の研修等（オンライン）	4 人
令 5.12.5	令和 5 年度登録要約筆記者の研修参加状況、要約筆記者の研修等（参集）	4 人

- ・ 特定非営利活動法人神奈川県中途失聴・難聴者協会
- ・ 神奈川県要約筆記協会
- ・ 社会福祉法人神奈川県聴覚障害者総合福祉協会

(2) 頸肩腕障がい健診

神奈川県登録手話通訳者 205 人中、他機関受診も含め受診者は 175 人、神奈川県登録要約筆記者 165 人中、他機関受診も含め受診者は 119 人であった。神奈川県登録手話通訳者、神奈川県登録要約筆記者を対象に、一般財団法人日本予防医学協会からの出張健診として、当センターにおいて実施した。

実施日は令和 5 年 8 月 15 日（火）、16 日（水）、19 日（土）の 3 日間。手話通訳者、要約筆記者別に日程を設定したが、受診機会を増やすため相互での受診を認めた。手話通訳者、要約筆記者の両方で登録している者の受診は、手話通訳者数で扱った。

一般財団法人日本予防医学協会の直接受診は手話通訳者 3 人、要約筆記者 1 人であった。ヒアリングが必要な者には連絡を行い、状況確認及び健康管理の促進等の依頼を行うとともに派遣依頼を考慮している。また、手話通訳者、要約筆記者の全員受診の方策についても検討をすすめている。

検査項目は身長・体重・血圧・視力（遠点・近点）タッピング・握力・ピンチ力（左右の人差し指、中指、薬指）・問診票（業務歴および既往歴・自覚症状の有無）と医師の問診で、問診票は 53 項目にわたった。

ア 手話通訳者受診状況

(ア) 登録者数 205 人（県域 168 人 川崎市 37 人 令和 5 年 9 月現在）

申し込む (111 人)	人数
センター受診	108 人
直接受診	3 人
申し込まない (94 人)	人数
居住市町村や他機関で受診	69 人

日程が合わない	14人
キャンセル	6人
その他	5人

(イ) 手話通訳者健診（センター受診および直接受診）

a 期 日

（センター受診） 令和5年8月15日（火）、8月19日（土）

（直接受診） 令和5年10月20日（金）、27日（金）、30日（月）

b 受診者数 111人（センター受診：108人・直接受診：3人）

c 健診結果

区 分	人 数
A 異常所見を認めません	95人
A2 有所見健康	14人
B1 要経過観察	2人
B2 経過観察中	0人
C1 要精密検査	0人
C2 治療中	0人

(ウ) 手話通訳者（他機関にて受診）

a 受診者数 69人（県域：32人・川崎：37人、うち回答者数64人）

b 健診結果

区 分	人 数
A 異常所見を認めません	60人
A2 有所見健康	3人
B1 要経過観察	1人
B2 経過観察中	0人
C1 要精密検査	0人
C2 治療中	0人

イ 要約筆記者受診状況

(ア) 登録者数 165人（令和5年9月現在）

申し込み（100人）	人 数
センター受診	99人
直接受診	1人
申し込まない（65人）	人 数
居住市町村や他機関で受診	19人

日程が合わない	28人
当日キャンセル	5人
その他	13人

※ 手話通訳資格者は除く。

(イ) 要約筆記者健診（センター受診および直接受診）

a 期 日

（センター受診） 令和5年8月16日（水）、8月19日（土）

（直接受診） 令和5年10月23日（月）

b 受診者数 100人（センター受診：99人・直接受診：1人）

c 健診結果

区 分	人 数
A 異常所見を認めません	88人
A2 有所見健康	12人
B1 要経過観察	0人
B2 経過観察中	0人
C1 要精密検査	0人
C2 治療中	0人

(ウ) 要約筆記者（他機関にて受診）

a 受診者数 19人（回答者数 14人）

b 健診結果

区 分	人 数
A 異常所見を認めません	12人
A2 有所見健康	1人
B1 要経過観察	1人
B2 経過観察中	0人
C1 要精密検査	0人
C2 治療中	0人

## 7 聴覚障がい福祉の普及啓発

聴覚障がい、聴覚障がい者についての理解を深めるため、講座及び研修会等を実施した。

また、企業、団体等と懇談を行い、事業にも協力するとともに、当センターとの協力関係を築くための取り組みを行った。

### (1) 出前コミュニケーション講座

高齢聴覚障がい者の相談ケース等から市町村と連携を図り、聴覚障がい者が初めて入所、または入所予定の高齢者施設向けに対応等の研修を行った。

今後も市町村や地域包括支援センター等との連携、神奈川県「介護サービス情報公表システム」等を活用し聴覚障がい者が入所する施設の情報収集および研修実施の働きかけを行う。

期 日	施設名	内 容	参加人数
令 5.7.14	特別養護 老人ホーム ラポール藤沢	・聞こえない体験（難聴体験・ろう体験） ・聞こえない事とは（聞こえのレベル、特性等） ・アンケートから一緒に考えてみよう（コミュニケーションとマスク問題、伝え方・認識のズレ、音声認識の使い方と単語登録）	15 人
令 6.1.11	介護付き 有料老人ホーム 長寿園	・聞こえない体験（難聴体験・ろう体験） ・聞こえない事とは（聞こえのレベル、特性等） ・伝えてみよう（糖質制限と適度な運動について）	15 人

### (2) 企業向けコミュニケーション支援研修

#### ア 研修会

聴覚障がい者を雇用している、または雇用を予定している企業に対して、聴覚障がい、聴覚障がい者との接し方等の研修を行った。三菱 UFJ ビジネスパートナー株式会社では、午前、午後の2回実施した。

期 日	企業名	内 容	参加人数
令 5.12.27	就労継続支援 A 型事業所 セイゴウウェル ビーイング	・自己紹介と各自の仕事内容の手話表現 ・聞こえない事とは（聞こえのレベル、特性等） ・伝えてみよう（指差し、声掛けの方法、わかりやすいメモの書き方など）	8 人
令 6.3.14	三菱 UFJ ビジネス パートナー 株式会社	・聞こえない体験（難聴体験・ろう体験） ・聞こえない事とは（聞こえのレベル、特性等） ・伝えてみよう（業務の振り返り面談）	午前 15 人
			午後 14 人

## イ 事業周知の活動

聴覚障がい者が入所している高齢者施設等向け「出前コミュニケーション講座」聴覚障がい者を雇用した企業等向け「企業向け研修」の周知のため、関係機関を訪問した。

神奈川県産業労働局労働部雇用労政課のメールマガジンへの記事掲載、「進めよう障がい者雇用」での、チラシ配布等の周知、聴覚障がい者を雇用している企業の見学会「ともに働く」にてセンター事業の紹介を行った。

期 日	訪問先および行事名
令 5.7.21	秦野市役所障害福祉課
令 5.8.24	自立訓練事業所コルポートカレッジ平塚キャンパス 平塚市障がい福祉課 平塚市福祉部 地域包括ケア推進課
令 5.9.7	神奈川県 産業労働局 労働部 雇用労政課 神奈川労働局
令 5.10.18	産業人材育成フォーラム「進めよう障がい者雇用」
令 5.11.16	就労継続支援 A 型事業所セイゴウウェルビーイング 就労継続支援 B 型事業所レインツリー鶴間事業所
令 5.11.21	神奈川トヨタ自動車株式会社
令 5.12.6	神奈川県 産業労働局 労働部 雇用労政課
令 5.12.8	就労継続支援 A 型事業所セイゴウウェルビーイング
令 6.1.19	「ふじさわ障がい者お仕事フェア」
令 6.1.20	

## ウ 事業問い合わせへの対応

事業に関する問い合わせ、相談に対して、来所、電話、訪問等により対応した。

区 分	電 話	メール	来 所	訪 問	計
企業等	3 件	0 件	0 件	1 件	4 件
介護施設	1 件	0 件	0 件	1 件	2 件
その他	4 件	2 件	2 件	1 件	9 件
計	8 件	2 件	2 件	3 件	15 件

### (3) 聴覚障がい・視覚障がいについて知る講座

講演を通して、聴覚障がいおよび視覚障がいの理解を促すため、高校生を対象に実施した。新型コロナウイルス感染拡大予防対策のため、オンラインで実施した。

実施にあたっては、神奈川県ライトセンター共催で進めた。

期 日	対象者	内 容	参加人数
令 5.9.16	高校生 教職員	第一部 「聴覚障がいについて知ろう」 「手話通訳・要約筆記について知ろう」 第二部 「視覚障がいについて知ろう」	11 人

#### (4) 聴覚障がい理解促進ビデオ制作・配信

聴覚障がい及び聴覚障がい者についての理解を促進するために、関連する基礎的な知識、情報について、番組を制作し、ホームページを通じて配信した。

題 名	内 容
聴覚障害者情報提供施設	聴覚障害者情報提供施設の役割、業務内容などの解説など。
電話リレーサービス	電話リレーサービスの概要と、利用方法等の解説など。
聴覚障がい者の日常生活用具	障害者総合支援法で定められている、聴覚障がい者用の日常生活用具の解説など。
要約筆記について	要約筆記とは何か。要約筆記の方法と、利用方法の解説など。
東京 2025 デフリンピック	デフリンピックの歴史、東京 2025 デフリンピックの概要や大会ビジョンの紹介など。

#### (5) 聴覚障がい理解のための懇談

企業、団体等に対して、聴覚障がい者の日常生活における不便さや、社会参加に向けた要望等について情報提供を行うとともに、企業、団体等が行う事業または ICT を活用した製品等について意見交換を行った。

実施日	企業・団体等名	方 法	参加人数
令 5.5.25	株式会社雪印スノーイーター	参集	8 人
令 5.6.6	日本調剤株式会社	参集	5 人
令 5.6.15	ヒヤリング・ディストリビュータ・ジャパン株式会社	参集	5 人
令 5.7.15	ピクシーダストテクノロジーズ株式会社	参集	6 人
令 5.11.9	株式会社プラザクリエイト	参集	4 人
令 5.11.9	ソフトバンク株式会社	オンライン	5 人

令 5.11.14	神奈川県立光陵高等学校	参集	8人
令 5.12.13	綾瀬市立中央公民館	オンライン	7人
令 6.2.15	一般財団法人日本財団電話リレーサービス	参集	6人
令 6.3.14	立命館大学	参集	3人
令 6.3.29	ソフトバンク株式会社	参集	4人

(6) 聴覚障がい理解のための事業等への協力

団体等が行った、聴覚障がい、聴覚障がい者理解のための事業に協力した。

ア 綾瀬市立中央公民館

(ア) 事業名 第65回神奈川県公民館大会

(イ) 日時 令和6年1月26日(金) 13:00~16:30

(ウ) 会場 綾瀬市オーエンス文化会館大ホール

(エ) 協力内容

a パネルディスカッションパネラー

b 聴覚障がい者パネラー対応支援

(オ) 協力人数 3人

イ 神奈川県立横浜瀬谷高等学校

(ア) 事業名 総合的な探究の時間(共生社会プロジェクト)

(イ) 日時 令和6年1月22日(月) 13:30~15:20

(ウ) 会場 神奈川県立横浜瀬谷高等学校本館1階食事室及び周辺地域

(エ) 協力内容

a 聴覚障がい者の日常生活における不便さの説明

b 市街地での、聴覚障がい者の不便さの検証

(オ) 協力人数 2人

ウ 神奈川県産業労働局労働部雇用労政課

(ア) 事業名 聴覚障がい者雇用に向けた見学会「ともに働く～学校見学から職場定着まで～」

(イ) 日時 令和6年1月30日(火) 14:00~16:30

(ウ) 会場 神奈川県立平塚ろう学校

(エ) 協力内容

a 当センター事業全体の紹介

b 企業向けコミュニケーション支援研修の目的、内容等の解説

(オ) 協力人数 2人

#### (7) 聴覚障がい理解のための普及啓発

団体や専門機関と当センターがつながることで、それぞれが持つ専門性を活用して、聴覚障がい者支援の充実を図った。誰もが生きやすく、暮らしやすい社会「ともに生きる社会」の実現に向けた取り組みをホームページにて紹介、情報発信を行うとともに、センター公式 LINE アカウントでも周知をした。

バナー内に、質問や相談のためのフォームを開設した。

ア 横須賀美術館「美術作品の手話解説動画がミュージアムの合理的配慮に？」(後編)

イ 株式会社ジャパンディスプレイ「新たなコミュニケーションのかたち～透明ディスプレイ Raelclear レルクリア～」

ウ 聴覚障がい者雇用に向けた県の取り組み“聴覚障がい者雇用に向けた見学会「ともに働く」”

エ セイゴウウェルビーイング就労継続支援 A 型事業所「互いを知り、伝え合う、働きやすい職場を目指して！」

## つながろう！プロジェクト

センターと関わりのある機関や団体をご紹介します!!

センターホームページのバナー

#### (8) 見学・事業紹介

申請に基づき施設見学、事業紹介を行った。また、ホームページに見学案内を掲載した。

区 分	件 数	人 数
教 育 関 係	5 件	44 人
サークル・一般	13 件	220 人
福 祉 団 体 等	7 件	64 人
行 政 機 関 等	1 件	2 人
個 人	0 件	0 人
計	26 件	330 人



## 8 地域活動支援

地域における聴覚障がい児者を支援する人材のスキルアップを図るため、市町村の意思疎通支援担当者、相談担当者、設置手話通訳者等を対象に研修の実施、助言及び支援を行うとともに、窓口対応等聴覚障がい児者と関わる機会のある市町村職員等を対象に、聴覚障がいの理解に関する講座を実施した。

### (1) 子育て支援事業（新生児聴覚スクリーニング検査の普及啓発及び訪問相談事業）

市町村と連携して支援にあたりるとともに、事業の普及啓発及びニーズの掘り起こしを継続して実施した。

聴覚障がいについての理解を深め、関係を強化するために、市町村の保健師等の子育て支援担当者を対象とした研修会を参集とオンラインの併用で実施した。新生児聴覚検査の意義や保護者支援の重要性について理解を深め、県の新生児聴覚検査に係る取り組みを把握した。また、聴覚障がい児の保護者から、新生児聴覚検査でリファアとなったときの状況や気持ち等を聞くことで、保護者に寄り添うことの大切さを学んだ。聴覚障がい児の早期発見、早期支援へとつなげていくために、今後も連携していくことを確認した。

・市町村子育て支援担当者聴覚障がい研修会（参集、オンライン併用型）

期 日	内 容	講 師 等	参加者数
令 5.8.23	講演「早期発見と早期支援および保護者支援」	全国早期支援研究協議会 会 長 南村 洋子 氏	10 市 4 町 28 人  参集： 5 人 OL： 23 人
	神奈川県聴覚障害者福祉センターの相談支援および聴覚障がい児支援中核機能事業について	神奈川県聴覚障害者福祉センター 主 事 若林 梢	
	聴覚障がい児の保護者の体験談「難聴と診断されたときを振り返って思うこと」	聴覚障がい児の保護者 中村 未樹 氏	
	新生児聴覚検査の取り組み、実施状況について	神奈川県健康医療局保健医療部 健康増進課 乗松 拓理 氏	
	神奈川県立平塚ろう学校の乳幼児相談について	神奈川県立平塚ろう学校 教 諭 安部川 典子 氏	

※「OL」はオンライン。参加者数の参集、OLは内数。

また、聴覚障がいと診断されたばかりで不安が大きい保護者の自宅に、市町村の保健師と連携して訪問し、聴覚障がいに関する情報提供を行った。

・訪問相談事業

<地域別相談件数>

市町村名	件 数
藤沢市	1 件

## (2) 市町村意思疎通支援担当者研修会

市町村での聴覚障がい者への相談の円滑な実施のため、担当職員等の技術、資質の向上及び聴覚障がい者が市町村の手話通訳者、要約筆記者の派遣制度を安心して利用でき、地域で安定した生活を送るために、市町村の設置手話通訳者、連絡調整業務担当者、相談担当者等の聴覚障がい関係職員等を対象に研修会を行った。

### ア 第1回市町村意思疎通支援担当者研修会

市町村で聴覚障がい者が直面している生活の課題について、中心となって動いている他県の自治体の手話通訳者の役割について講義を行った。正規職員として80%が勤務している石川県内の市町村の様子から、あらためて聴覚障がい福祉向上のためには、正規職員として手話通訳者が必要であることを確認した。また、全国的な手話通訳者不足は継続しており、現在、大学における手話通訳者の養成や、遠隔手話通訳の利用についても学び、後半のグループディスカッションでは各地域の課題を情報交換した。

参加者は27人(19市町村)であった。

#### (前半)

期 日	テ ー マ	講 師 等
令 5.10.25	「神奈川県内の市町村設置通訳者の状況－意思疎通支援アンケートの結果から－」	神奈川県聴覚障害者福祉センター 施設事業係長 山本 隆志
	講義「自治体手話通訳者の役割と仕事」－石川県内の自治体手話通訳の設置状況等－	白山市社会福祉協議会 地域福祉課長 門倉 美樹子 氏

#### (後半)

期 日	テ ー マ	講 師 等
令 5.10.25	講義「聴覚障害支援をめぐる「今日的課題から－合理的配慮はなぜ進まないのか－」	群馬大学共同教育学部教授 手話サポーター養成プロジェクト室室長 金澤 貴之 氏
	「グループディスカッション」各市町村の課題や事前アンケートから情報共有	Aグループ(小田原市、葉山町、茅ヶ崎市、鎌倉市、相模原市、海老名市)、Bグループ(横須賀市、厚木市、大和市、逗子市、寒川町、相模原市、藤沢市) Cグループ(中井町、綾瀬市、葉山町、座間市、藤沢市、相模原市) Dグループ(山北町、座間市、三浦市、平塚市、伊勢原市、逗子市) ※複数人数参加市町村は、別グループに分かれて参加。
	各グループでの話し合い内容をについて共有(発表)	各グループ代表

イ 第2回市町村意思疎通支援担当者研修会（参集型）

前半は難聴当事者であり研究者の立場から、耳の聞こえにくさを抱えて生きる上での困難や、難聴が発覚してから、情報保障を受けるまでの過程、情報保障の体験を通して合理的配慮をいかに求めていくかのお話しを頂いた。また、センターの高齢難聴者相談の事例から、合理的配慮としてどのような支援が有効的であったか等、IT機器等の紹介もしながら、だれでも社会参加が自由にできる社会について講義を行った。後半は要約筆記を市民に広く発信するための取り組みについてや、要約筆記の認知度が低いことに対する対策について等を中心に、情報交換を行った。

参加者は、22人（15市町村）であった。

（前半）

期 日	テ ー マ	講 師 等
令 6.2.21	「要約筆記の現状と普及を進めるために～難聴者と中途失聴者の心理的側面から～」	東京大学先端科学技術研究センター当事者研究分野 特任助教授 勝谷 紀子 氏
	「合理的配慮とコミュニケーション支援の事例報告」	神奈川県聴覚障害者福祉センター 主 事 大本 純子

（後半）

期 日	テ ー マ	講 師 等
令 6.2.21	「グループディスカッション」－事前アンケートにあった課題等について－	A グループ （平塚市、茅ヶ崎市、綾瀬市、大磯町、横須賀市） B グループ （藤沢市、厚木市、逗子市、寒川町、葉山町、大和市） C グループ （小田原市、海老名市、逗子市、寒川町、座間市） D グループ （藤沢市、茅ヶ崎市、厚木市、海老名市、葉山町、相模原市）  ※複数人参加市町村は、別グループに分かれて参加）
	各グループでの話し合い内容について共有（発表）	各グループ代表

### (3) 市町村聴覚障がい理解講座

市町村職員等を対象に、聴覚障がい及び聴覚障がい児者との接し方等についての情報提供を行い、聴覚障がい児者が地域で安心して暮らせるコミュニケーションの環境の整備を図った。今年度より、オンデマンドでの理解講座として実施し、要望に応じて参集でも実施した。

(オンデマンド)

期 日	方 法	対象地域	参加者数
随 時	オンライン	全市町村	2市 2人

(参 集)

期 日	方 法	対象地域	参加者数
令 5.7.12	参 集	全市町村	6市4町 10人

### (4) 市町村意思疎通支援等事業アンケート

令和4年度に実施した、聴覚障がいに関する市町村意思疎通支援等の事業の実態についての調査結果を市町村等に報告するとともに、集計結果をホームページで公開した。

## 9 広報等

広報紙を発行し、関係機関、団体等に配布するとともに、ホームページを用いて各種講座、講習会、事業紹介等のお知らせ、ストリーミングにより手話動画配信を行った。

また、神奈川県聴覚障害者福祉センターLINE 公式アカウントを利用し、文字情報に加え手話による情報、字幕付き映像などの情報提供を行った。

提案箱の設置、苦情解決の取り組み等を行った。

### (1) 広報紙「神奈川県聴覚障害者福祉センターだより」

ア 発行回数 6回（隔月発行）

イ 発行部数 4,000部（1回）

### (2) 神奈川県聴覚障害者福祉センターホームページ

ア トップページアクセス数 61,144件

イ 新規掲載情報件数（※令和4年度からの継続掲載記事は除く。）

区 分	件 数
講座・講習会・研修会のお知らせ	44件
センター事業のお知らせ	54件
センターからのお知らせ	19件
聴覚障害児者関連情報案内	3件
手話通訳者、要約筆記者、盲ろう者通訳・介助員向け案内	56件
計	176件

### ウ 主な改善点

(ア) 掲載内容の更新

(イ) リンク先の拡大

(ウ) トップページので視性を向上

(エ) 新型コロナウイルスの影響による当センターの対応等について掲載

(オ) 新型コロナウイルスの相談先などに関する情報を発信

(カ) センターの事業等で実施されている合理的配慮についての紹介記事を掲載

### (3) 神奈川県聴覚障害者福祉センターLINE 公式アカウント

ア 登録人数 798人

イ 配信回数 61件

ウ 配信先件数 43,911件

### (4) 提案箱「皆さまの声」の設置

設置場所 ロビー

投書件数 0件

### (5) 苦情解決に関する仕組みの広報

掲示場所 ロビー

### (6) 苦情件数 0件

## 10 利用者利便の向上

利用者の利便を図るために、部屋、機材等の貸し出しなどを行った。

### (1) 部屋の貸し出し

利用者の利便拡大のため、平成 24 年 1 月から特定日曜日を設け、聴覚障がい者団体、聴覚障がい関係団体に対して、早期からの部屋貸し出しを行っている。

新型コロナウイルス感染拡大予防対策のため、令和 4 年度に引き続き、基礎的な換気、消毒等の感染対策を講じながら、通常の貸出し等を行った。

名 称	件 数	人 数
大講習室	158 件	4,179 人
小講習室	29 件	349 人
会議室	91 件	1,217 人
ボランティア室	208 件	2,049 人
和 室	0 件	0 人
資料室	77 件	526 人
計	563 件	8,320 人

### (2) 機材、用具の貸し出し

館内利用者等に対して、機材、用具の貸し出しを行った。

機 材 等	件 数
液晶プロジェクター	140 件
OHP、スクリーン等	56 件
携帯用ヒアリンググループ (聴覚障がい者関係団体)	5 件
携帯用ヒアリンググループ (民間団体等)	2 件
テレビ、デッキ等	223 件
講師用パソコン	56 件
計	482 件

### (3) 検索用パソコンの設置

検索用パソコンをロビーに設置し、利用者の利便を図った。

利用件数 0 件

### (4) 自動体外式除細動器 (AED) の設置

自動体外式除細動器 (AED) をロビーに設置し、緊急時の対応に備えた。

使用件数 0 件

### (5) 点字及び点字ブロックの設置

エレベーター、案内板等に点字を設置するとともに、各階に点字ブロックを設置し、視

覚障がい者の利便を図った。

点字ブロック設置場所
1階廊下
2階廊下
地下廊下

(6) ヒアリンググループの設置

ヒアリンググループを講習室等に設置し、補聴器使用者の利便を図った。

ヒアリンググループ設置場所
大講習室
小講習室
会議室
ボランティア室

(7) 利用団体用ロッカーの貸し出し

当センターを定期的にご利用する関係団体の資料、資材等の保管のために、ロッカーを設置し、貸し出しを行い、利用者の利便を図った。

貸し出しロッカーは、年度ごとに更新を行う。

利用団体用貸し出しロッカー数 22個

(8) 多目的トイレの設置

1階「車いす等用トイレ」を、「多目的トイレ」に改めている。車いすの方、高齢者、小さな子ども連れの人等も、男女共用で誰でも気軽に利用できる「多目的トイレ」として活用することで、利用者の利便を図った。

多目的トイレ数 1ヶ所

(9) 折り機の設置

当センターを利用する関係団体等が会報、資料等の折り込みに活用するため、自由に利用できる折り機を設置し、利用者の利便を図った。

折り機設置台数 1台

(10) プロジェクターの固定設置

天井にプロジェクターを固定設置し、貸出、設置等について、利用者の利便を図った

設置場所 大講習室

(11) 移動式引き上げスクリーンの配置

移動式の軽量の引き上げ型スクリーンを配置し、資料投影、情報保障等で活用の円滑化を図り、利用者の利便を図った。

設置台数 3台

(12) 神奈川県聴覚障害者福祉センター一部屋利用団体懇談会

部屋利用に関しての利用団体との意見交換を行った。

回数 1回

## 11 ICT化への取り組み

利用者がインターネットを活用して、パソコン、スマートフォンや携帯電話、タブレット型端末などのICT関係の機器を活用できるように環境を整備した。また、事業でもICTを活用して、利用者の利便性の向上、事業の効率化等を図った。

### (1) 施設管理運営業務の取り組み

#### ア Wi-Fi環境の整備

ロビー、講習室等にWi-Fiルーターを設置し、館内では、パソコン、スマートフォン、携帯型タブレット端末でのインターネット接続を可能とした。また、利用方法をロビー及び講習室に掲示し、利用を推進した。

#### (ア) Wi-Fiルーター設置場所

設置場所	台数
1階	3台
地下1階	1台
2階	3台

#### (イ) 利用方法

a SSID kanagawa-wad-wifi

b パスワード kanagawawad1911

#### イ 施設利用に係る問合せ、部屋利用予約等のメールによる対応

<ホームページ「お問い合わせ・アクセス」欄に掲載したメールアドレス>

【総合受付】(部屋予約・見学予約等含む)	office@kanagawa-wad.jp
【手話通訳者、盲ろう者通訳・介助員派遣担当】	haken@kanagawa-wad.jp
【要約筆記者派遣担当、要約筆記者養成担当】	pc-youyaku@kanagawa-wad.jp
【相談・指導、聴力検査、補聴器調整担当】	soudan@kanagawa-wad.jp
【ビデオライブラリー担当】	video@kanagawa-wad.jp
【手話通訳者養成担当】	shuwa-y@kanagawa-wad.jp
【盲ろう者に関する相談】	moro-sodan@kanagawa-wad.jp

#### ウ テレワークにも対応できるICT環境の整備

リモートアクセスサービスによる職場のネットワークへのアクセス、情報資産の効率的活用を進めている。

#### エ 電光掲示等

館内各所に電光表示を設置し、部屋利用に関する情報を提供し、利用者の利便性向上を図った。また、情報モニターを設置し、自主制作番組等を放映した。

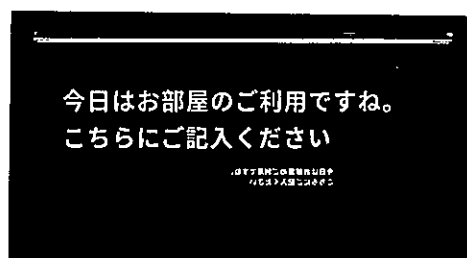
区分	設置場所	台数
施設予約総合案内	玄関	1台



情報モニター	ロビー	1台
部屋利用表示	大講習室、小講習室、ボランティア室、会議室、資料室、和室	6台
部屋利用状況表	ロビー	1台

オ 自動音声認識システムの設置

透明アクリル板に、音声を文字変換し表出することができる、シースルーキャプションを、受付にて使用している。



「透明ディスプレイ Raelclear (レルクリア)」

カ QRコードによる施設紹介用動画設置

施設紹介手話動画を制作し、スマートフォン、タブレット型端末等で読み込むことができるQRコードを4箇所を設置した。

設置階	設置場所
1階	ロビー
	レリーフ
	補聴相談室前
2階	大講習室前

キ タブレット型端末の貸し出し

タブレット型端末の操作方法等を支援し、ICT活用を図るため、タブレット型端末の貸し出しを開始した。

貸し出し件数 0件

(2) 事業における取り組み

ア 情報提供

SNS やメールを活用した情報提供、動画配信、聴覚障がい者向けのアプリ・機器等の紹介等に取り組んだ。

(ア) SNS、メールの活用

ホームページで公開したメールアドレスを活用して、事業における情報提供を行った。

また、SNSの活用として、神奈川県聴覚障害者福祉センターLINE公式アカウント

を運用し情報提供を行った。

神奈川県聴覚障害者福祉センターLINE 公式アカウント  
(友だち登録用 QR コード)



(イ) 動画配信

ホームページを活用して動画のストリーミング配信を行った。また、神奈川県聴覚障害者福祉センターLINE 公式アカウントでも紹介動画等を掲載し配信した。ロビーには、情報モニターを設置し、自主制作番組等の放映を行った。

- a ホームページからの動画配信 431 件
- b LINE公式アカウント動画配信 21 件
- c ロビー情報モニター動画配信 17 件

(ウ) 聴覚障がい者向けのアプリ・機器等の紹介等

聴覚障がい者向けのアプリ・機器を相談等で紹介を行うとともに、機器の試用を行った。

a 紹介した主なアプリ・機器

区 分	名 称
アプリ	音声認識文字変換アプリ等 ・「UD トーク」 ・「Speech Canvas」 ・「YY 文字起こし」 ・「YYProbe」 ・「声文字」(自立コム (有料)) ・「見える電話」 ・「こえとら」 ・「声で筆談」 ・「タップで会話」 ・「Live Transcribe (Android)」 ・「Vosual」 ・「しゃべって筆談」 など
機 器	AI ボイス筆談機「タブレット mimi」 自動音声認識システム「レルクリア」

b 試用した機器

(a) 自動音声認識システム「レルクリア」(株式会社ジャパンディスプレイ)

特 徴 透明アクリル板に、音声を文字変換し表出することができる。  
受付等で相手の姿、顔を遮ることがなく、口形や表情を見ながら  
コミュニケーションを図れる。

また、携帯型小型ディスプレイも開発中。

試 用

- ・期 日 令和5年10月22日(日)
- ・場 所 神奈川県聴覚障害者福祉センター
- ・会 場 ロビー：聴障センターまつり総合受付  
会議室：音声認識機器等デモンストレーション

(b) 指向型自動音声認識システム「VUEVO (ビューボ)」

(ピクシーダストテクノロジーズ株式会社)

特 徴 円形の指向型マイク(概ね4方向、8方向まで可能)を会議等の  
テーブルの中心に置き、マイクから音声を聴取し、文字変換して、  
パソコン、スマートフォン、タブレット型端末または専用のスマー  
トグラスに表示する。

指向性があるため、画面上には、マイクを中心に放射状(360°ビ  
ュー)に話し手の方向に文字表示できる。複数での会話では、どの  
方向から話しているかが分かる。また、各方向により文字色が異な  
るため、話者が認識しやすい。

試 用

- ・期 日 令和5年7月15日(土)
- ・場 所 神奈川県聴覚障害者福祉センター資料室

イ 相談・支援事業

ろうあ相談を中心に、LINE、FaceTime、SkypeなどのSNS、メールのチャット  
機能、及びWEB会議システム「Zoom」を活用したオンラインでの相談を実施した。  
また、メールでの相談にも応じた。

聴覚障がい乳幼児支援、コミュニケーション支援では、申込等にWebアプリケー  
ション「Google フォーム」も活用するとともに、実施にあたっては、WEB会議シス  
テム「Zoom」も活用した。

- ・オンライン相談件数 99件
  - ・オンラインによる支援回数
    - 聴覚障がい乳幼児支援 6回 105人
    - コミュニケーション支援 9回 31人
- ※ 回数には、参集・オンライン併用を含む。

ウ 手話通訳者・要約筆記者派遣

手話通訳者、要約筆記者の派遣では、WEB 会議システム「Zoom」等を活用してのオンライン派遣を行った。また、手話通訳者、要約筆記者との連絡調整には、メールも活用するとともに、派遣申請及び派遣申請者との連絡調整にもメールを活用した。

オンライン派遣区分	件数	人数
手話通訳者派遣	30 件	57 人
要約筆記者派遣	62 件	243 人
計	92 件	300 人

エ 講習会・研修会等

手話通訳者養成講習会では、SNS の LINE や WEB 会議システム「Zoom」の活用、及び音声認識文字変換アプリ「UD トーク」も活用した。講師、受講者等との連絡調整にはメールも活用した。

要約筆記者養成講習会では共通講義を、WEB 会議システム「Zoom」を活用しての同時配信を行った。要約筆記者養成委員会では、WEB 会議システム「Zoom」も活用した。また、講師、受講者、委員等との連絡調整にはメールも活用した。

講座、研修会等では、申込等に Web アプリケーション「Google フォーム」および「フォームメーカー」も活用して利用者の利便を図るとともに、WEB 会議システム「Zoom」を活用しての講座、研修、会議、打ち合わせ等も行った。

区 分	講座・研修名	メール	SNS	動画 配信	WEB 会議	Web アプリ
各種講座	教養講座	○	○			○
	おしゃべりサロン	○	○			
	難聴者サロン	○				○
	社会生活力講座	○	○			
手話通訳者・要約筆記者の技術研修	手話通訳者研修会	○			○	
	手話通訳者技術研修会	○				○
	手話通訳者新人研修会	○		○		
	三者共催要約筆記者研修会	○			○	○
地域活動支援	市町村聴覚障がい理解講座	○		○		
	市町村子育て支援担当者聴覚障がい研修会	○			○	○
聴覚障がい福祉の普及啓発	高校生対象「聴覚障がい・視覚障がいについて知る講座」	○	○		○	○

※ 情報提供、相談・支援、手話通訳者・要約筆記者派遣、手話通訳者・要約筆記者養成等の事業を除く。

- ※ メールのみを活用した事業は除く。
- ※ 「SNS」は、LINE、FaceTime、Skype等
- ※ 「動画配信」は、インターネット動画配信サービス「YouTube」等
- ※ 「WEB会議」は、WEB会議システム「Zoom」、「Google Meet」、「Microsoft Teams」等
- ※ 「Webアプリ」は、Webアプリケーション「Google フォーム」「フォームメーカー」等

### (3) オンラインでの事業実施状況

新型コロナウイルス感染拡大予防対策を含めて、ICTを活用して、オンラインまたは、参集・オンライン併用で事業を実施した。

実施にあたっては、WEB会議システム「Zoom」を活用するとともに、インターネット動画配信サービス「YouTube」を利用しての、事前収録した映像の配信または同時配信も行った。相談ではSNS等も活用した。

区 分	事業の名称等		件数・回数	オンライン参加人数	備 考
相談	相談（映像での相談）		31	31	WEB会議システム等による。他に、SNSチャット等による相談件数は、68件。
支援	聴覚障がい乳幼児支援		6	105	懇談及び勉強会等。
	コミュニケーション支援		9	31	コミュニケーション支援講座
手話通訳者・要約記者の養成	手話通訳者養成講習会	「通訳Ⅰ」	2	2	令和4年度開始コースを含む。
		「通訳Ⅱ・Ⅲ」	2	0	令和4年度開始コース、指導講師のみオンライン対応を含む。
	要約記者養成	令和5年度養成講習会	14	46	共通講義の同時配信
手話通訳者・要約記者の技術研修等	手話通訳者新人研修会		3	3	欠席者向け代替研修オンライン3回
	三者共催要約記者研修会		1	52	オンライン同時配信。
手話通訳者・要約記者の派遣	手話通訳者派遣（オンライン）		30	57	会場、拠点からのオンラインによる情報保障者数。
	要約記者派遣（オンライン）		62	243	会場、拠点、自宅からのオンラインによる情報保障者数。
	手話通訳者・要約記者派遣運営委員会		3	17	オンライン会議システム活用
聴覚障がいの理解促進	高校生対象「聴覚障がい・視覚障がいについて知る講座」		1	11	オンライン会議システム活用
	聴覚障がいについての懇談		2	12	オンライン会議システム活用
地域活動支援	市町村聴覚障がい理解講座		2	2	オンデマンド配信
	市町村子育て支援担当者聴覚障がい研修会		1	23	オンライン同時配信。
その他	職員の研修、会議への参加等		11	36	会議・研修、職員研修会等。

※ 回数には、参集・オンライン併用を含む。  
 ※ ホームページからの動画配信等を除く。

## 12 災害対策等

地震等の自然災害、感染症拡大等の非常事態に備えて、対策に取り組んだ。

業務継続計画について協議を行うとともに、災害時強化事業として、平時からの取り組みを行った。

また、施設管理、事業等で新型コロナウイルス感染拡大予防対策を実施した。

### (1) 業務継続計画の課題検討、点検見直し

災害対策強化に関する会議を実施し、業務継続計画（自然災害等、新型インフルエンザ等感染症対策）の課題検討及び点検見直しを行った。

課題検討・点検見直し作業

実施日	内 容
令 5.8.16	業務継続計画（自然災害等、新型インフルエンザ等感染症対策）の課題検討。
令 6.2.29	業務継続計画（自然災害等、新型インフルエンザ等感染症対策）の課題検討並びに点検見直し。

### (2) 災害時強化対策事業

災害時に備え、災害対策強化を検討、訓練を通じて災害時の対応強化を実施するとともに、備蓄品の管理を行った。

また、聴覚障害者災害対策救援神奈川県本部事務局として、当事者団体及び支援者団体との連携を図り、災害時における神奈川県域の聴覚障がい者の情報保障拠点として機能するよう、検討を行い県域における聴覚障がい者、関係者の防災意識の向上、災害被害の軽減化を図った。

#### ア 災害時対応

(ア) 備蓄品の整備

(イ) 防災に関する近隣住民との交流促進

町内会員として町内会の自主防災訓練（安否確認、起震車体験）、避難施設見学訓練に参加

(ウ) 藤沢市が実施している『救命セーフステーション標章交付制度』への登録

(エ) 広報

こどもタウンニュースふじさわ

第16号（令和6年3月中旬発行、防災をテーマとする号）に、施設長へのインタビュー「聴覚障がい者の災害対応について」の記事掲載

#### イ 訓練

(ア) 防災訓練講習実施 5回

総合防災訓練（地震発生に伴い火災発生を想定とした消防・避難訓練）、消火器・消火栓体験訓練、消防署員による講演（家庭での防災、出火防止）、吐しゃ物・嘔吐物の処理訓練、通報訓練、安否確認訓練

※ 通報訓練では、聴覚障がい者が FAX に加え、電話リレーサービスによる電話での通報訓練を実施した。



電話リレーサービスによる通報訓練



消火器体験訓練

(イ) 県、市町村及び町内会防災訓練参加 3回

#### ウ 教育

Jアラート発令に伴い警報が鳴った時の対応、安否確認の方法、吐しゃ物・嘔吐物の処理

#### エ 聴覚障害者災害対策救援神奈川県本部

(ア) 会議 5回

(イ) 訓練 1回

令和6年3月23日(土) 安否確認訓練

※今年度訓練より、市町村及び県行政へ報告実施。

#### (ウ) 県防災訓練参加

聴覚障害者災害対策救援神奈川県本部として、令和5年10月15日(日)「ビッグレスキューかながわ」(令和5年度神奈川県・大井町町合同総合防災訓練)展示体験コーナーにブース出展。



(エ) 学習会・講習会 1回

令和5年11月18日(土)

情報交換会「ビッグレスキューかながわ、安否確認訓練」

～県域本部、市町村本部ごとの取組～

県域本部、市町村本部の取組について、報告及び情報交換実施。

オ 災害等の緊急対応の試行

災害時、緊急時の情報保障および遠隔手話通訳実施に向けた準備として、遠隔地とセンターを結び、タブレット型端末によるテスト通信を実施した。

通信時の確認事項は、所在地、通信環境、映像・音声状況、通訳内容等。センター避難訓練においても遠隔通訳を実施した。

実施日	場 所	内容等
令 5.7.21	秦野市役所	テスト通信
令 5.8.24	平塚市役所	テスト通信
令 5.8.31	入町公園	センター避難訓練

(3) 感染症感染防止対策

新型コロナウイルス感染拡大予防対策として、密の回避、館内の消毒・換気の実施等の基本的な対策を講じるとともに、利用者への消毒、密の回避、体調不良時の利用自粛等の協力要請を行った。また、事業においても、基本的な対策とともに、オンラインでの事業実施等を講じて実施した。

詳細は、35 ページ「新型コロナウイルス感染拡大予防対策」に記載した。



### 13 関係団体・機関との連絡調整、会議等

聴覚障がい者団体、聴覚障がい者関係団体等と協議、連携を取るとともに、特定非営利活動法人全国聴覚障害者情報提供施設協議会等とも協議、協力を行った。

#### (1) 特定非営利活動法人全国聴覚障害者情報提供施設協議会

##### ア 令和5年度総会、第19回大会（通算31回）

期 日 令和5年6月22（木）、23日（金）

会 場 やまなしプラザオープンスクエア

議 案 令和4年度事業報告及び決算等

令和5年度事業計画及び予算等

シンポジウム「聴覚障害者情報提供施設における相談支援のあり方」

厚生労働省自立支援振興室室長補佐 富原 博 氏

一般財団法人全日本ろうあ連盟理事 吉野 幸代 氏

東京手話通訳等派遣センターセンター長 森 せい子 氏

参加職員数 1人

構成機関等 全国の聴覚障害者情報提供施設、並びに団体、企業等の賛助会員

#### イ 関東ブロック（第3ブロック）

##### (ア) ブロック会議

期 日 令和5年8月24日（木）

会 場 神奈川県聴覚障害者福祉センター

内 容 令和5年度事業計画及び情報交換等

参加職員数 1人

##### (イ) ブロック研修

期 日 令和6年2月20日（火）

会 場 筑波技術大学

内 容 講演及び手話通訳、要約筆記情報交換会等

参加職員数 2人

##### (ウ) 関東ブロック映像制作担当者研修会

期 日 令和6年1月31日（水）

会 場 神奈川県聴覚障害者福祉センター

内 容 技術研修等

参加職員数 1人

##### (エ) 構成機関

茨城県立聴覚障害者福祉センター「やすらぎ」、

とちぎ視聴覚障害者情報センター、

群馬県聴覚障害者コミュニケーションプラザ、

埼玉聴覚障害者情報センター、千葉聴覚障害者センター、

聴力障害者情報文化センター、山梨県立聴覚障害者情報センター、  
横浜ラポール聴覚障害者情報提供施設、川崎市聴覚障害者情報文化センター、  
当センター、東京手話通訳等派遣センター（賛助会員）

(2) 神奈川県内聴覚障害者情報提供施設会議

ア 手話通訳者・要約筆記者派遣担当者会議（3 窓口会議）

期 日 令和 5 年 6 月 13 日（火）（オンライン）

内 容 手話通訳者、要約筆記者派遣担当窓口分担調整、並びに派遣におけ  
る課題協議等

参加職員数 3 人

イ 構成機関 横浜ラポール聴覚障害者情報提供施設  
川崎市聴覚障害者情報文化センター  
当センター

(3) 特定非営利活動法人神奈川県中途失聴・難聴者協会との懇談

期 日 令和 5 年 8 月 5 日（土）

会 場 神奈川県聴覚障害者福祉センター

内 容 中途失聴者・難聴者事業に関する意見交換等

参加職員数 4 人

(4) 神奈川県ライトセンターとの懇談

・期 日 令和 5 年 5 月 16 日（火）

会 場 神奈川県聴覚障害者福祉センター

内 容 事業の協力、連携等について

参加職員数 4 人

・期 日 令和 5 年 10 月 4 日（水）

会 場 神奈川県ライトセンター

内 容 今後の事業協力、連携等について

参加職員数 2 人

(5) 手話通訳者研修会担当者会議

回 数 4 回

構成団体 公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会  
神奈川県手話通訳者協会  
当センター

内 容 令和 5 年度の手話通訳者研修会の内容・担当の協議  
令和 6 年度の手話通訳者研修の内容の協議

参加職員数 2 人

(6) 手話通訳者新人研修担当講師との打ち合わせ会議

期 日 令和 5 年 4 月 12 日（水）

公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会  
 神奈川県手話通訳者協会  
 当センター

内 容 令和5年度手話通訳者新人(2年目)研修の内容を協議

(7) その他

ア 市町村意思疎通支援担当者会議

期 日 令和6年3月21日(木)(オンライン)

主 催 神奈川県福祉子どもみらい局福祉部障害福祉課

参加職員数 1人(オンライン)

14 所内会議等

(1) 職員会議

会議名	回数	主な協議内容
所長会議	12回	日常的な事業、運営について、情報共有、課題検討等
施設事業課会議	12回	指定管理事業等の実施に関する情報共有及び課題検討等
総務課会議	11回	全体の事業実施状況及び運営等に関する課題検討等
全体会議	12回	職員間での情報共有及び課題検討等

(2) 専門事業別会議

会議名	回数	主な協議内容
ケース会議	11回	相談、支援ケースの処遇、対応等についての協議検討
手話通訳者・要約筆記者派遣担当者会議	6回	手話通訳者、要約筆記者派遣等に共通する課題の検討及び研修等の事業調整、情報共有、相互支援の調整等

(3) 所内委員会・その他の会議

委員会名・会議名	回数	主な協議内容
K A I Z E N	2回	センター利用者及び職員の環境整備について等
広 報	1回	ホームページのより良い活用方法について等
ICT 活用	2回	生成 AI に音声ソフト、手話翻訳アプリの活用等
災害対策強化	2回	業務継続計画の課題検討及び点検見直し、災害時の課題検討等

## 15 職員の研修等

### (1) 一般研修

#### ア 新人研修

期 日 令和5年9月5日(火)

方 法 参集方式

### (2) 職員研修

#### ア ハラスメント基本講座

期 間 令和6年2月14日(水)～2月28日(水)

方 法 オンデマンド方式

内 容

区 分	テ ー マ
第1講義	ハラスメントの基礎知識(ハラスメントとは?)
第2講義	多様化するハラスメント(ハラスメントの種類や内容の理解)
第3講義	どのような言動や行動がハラスメントになるのか?①(基本)
第4講義	どのような言動や行動がハラスメントになるのか?②(窓口受付業務で、来館者に対してハラスメントになるケース等)

講 師 朽木 鴻次郎 氏(株式会社クリエイトパートナー講師)

#### イ 専門分野別研修

##### (ア) 派遣関係職員等

期 日 令和5年8月30日(水)

方 法 参集方式

内 容 手話通訳をめぐる制度的理解、遠隔手話通訳をめぐる等

講 師 金澤 貴之 氏

(群馬大学共同教育学部特別支援教育講座教授)

##### (イ) 相談支援関係職員等

期 日 令和6年2月7日(水)、2月28日(水)

令和6年3月6日(水)

方 法 参集方式

内 容 相談支援の基本姿勢、面接時術の基本、事例検討等

講 師 館脇 千春 氏

(一般社団法人日本聴覚障害者ソーシャルワーカー協会副会長)

二神 麗子 氏

(一般社団法人日本聴覚障害者ソーシャルワーカー協会理事)

### (3) 専門研修

#### ア 相談・支援関係

##### (ア) 聴覚障害者の精神保健福祉を考える研修会 2023

主 催 社会福祉法人聴力障害者情報文化センター

期 日 令和5年8月19日(土)、8月20日(日)(オンライン)

##### (イ) バリアフリーフェスタかながわ 2023

主 催 神奈川県バリアフリー街づくり推進県民会議

期 日 令和5年11月4日(土)

#### イ 育成普及関係

##### (ア) 意思疎通支援担当者研修会

主 催 特定非営利活動法人全国聴覚障害者情報提供施設協議会

期 日 令和5年7月27日(木)、28日(金)

##### (イ) 全通研 2023年フォーラム「地域社会と自治体手話通訳者のしごと」

主 催 一般社団法人全国手話通訳問題研究会

期 日 令和5年10月27日(金)(オンライン)

##### (ウ) 全聴情協関東ブロック映像制作担当者研修会

主 催 特定非営利活動法人全国聴覚障害者情報提供施設協議会  
第3ブロック

期 日 令和6年1月31日(水)

##### (エ) 全聴情協第3ブロック研修会

主 催 特定非営利活動法人全国聴覚障害者情報提供施設協議会  
第3ブロック

期 日 令和6年2月20日(火)

#### ウ その他

##### (ア) 神奈川工科大学 60周年記念国際シンポジウムパラレル・イベント「アジア・太平洋地域の障害者の暮らしと災害対策～誰一人取り残さないために～」

主 催 神奈川工科大学

期 日 令和5年8月22日(火)、24日(木)(オンライン)

##### (イ) 聴覚障害者関係施設職員対象管理職員研修

主 催 社会福祉法人全国手話研修センター

期 日 令和6年2月26日(月)、27日(火)

### (4) 職員の講演等

#### ア 藤沢市内ことばの教室研究会

主 催 藤沢市立大庭小学校

期 日 令和5年9月1日(金)

- イ 神聴協高齢部「長寿を祝う会」  
主 催 公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会高齢部  
期 日 令和5年9月20日(水)
- ウ 逗葉手話サロン  
主 催 逗葉ろうあ協会  
期 日 令和5年10月13日(金)
- エ 教養講座「聴こえづらさに注意!～聴覚の重要さと補聴器の話～」  
主 催 神奈川県ライトセンター  
期 日 令和5年9月30日(土)
- オ 医療・介護者向け人材育成セミナー  
主 催 社会福祉法人平塚市社会福祉協議会  
期 日 令和5年8月22日(火)
- カ 健康大学  
主 催 鎌倉市介護保険課  
期 日 令和5年8月30日(水)
- キ 障害者の対応のポイント研修  
主 催 鎌倉市市民防災部深沢支所  
期 日 令和5年10月31日(火)
- ク 家族介護教室  
主 催 茅ヶ崎南地区地域包括支援センター  
期 日 令和5年11月30日(木)
- ケ 職員向け研修  
主 催 鎌倉市障害福祉課  
期 日 令和5年9月13日(水)
- コ 職員研修  
主 催 社会福祉法人いきいき福祉会  
期 日 令和5年9月21日(木)
- サ 相模原市要約筆記者養成講座  
主 催 社会福祉法人相模原市社会福祉事業団  
期 日 令和5年8月3日(木)
- シ 茅ヶ崎市障がい福祉推進事業  
主 催 茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課  
期 日 令和5年12月12日(火)
- ス 茅ヶ崎市入門要約筆記講習会  
主 催 茅ヶ崎市要約筆記者連絡会  
期 日 令和6年1月10日(水)

- セ 厚木市手書き要約筆記者養成講習会
  - 主 催 あつぎ文字通訳「道」
  - 期 日 令和6年1月15日(月)
- ソ 海老名市要約筆記者養成講習会
  - 主 催 筆記通訳「風」
  - 期 日 令和6年1月19日(金)
- タ 綾瀬市要約筆記ボランティア入門講座
  - 主 催 要約筆記サークル「あやせ」
  - 期 日 令和6年3月3日(日)

(5) ボランティアの受け入れ状況

ボランティアの受け入れを行い、支援を得た。延 14 人。

区 分	人 数
保 育	8 人
パソコン点検	6 人
施設見学、剪定	0 人
相談支援	0 人
講座支援	0 人
計	14 人

(6) 実習生の受け入れ

機関・学校名等	実 施 日	人数
神奈川県立湘南支援学校	令和5年7月29日(土)、8月5日(土) (全2日)	1人
国立障害者リハビリテーションセンター学院	令和5年8月1日(火)、4日(金)、5日(土)、 12日(土)、26日(土) (全5日)	1人

## 16 神奈川県聴覚障害者福祉センター施設維持管理

### (1) 建築物の保守管理

建築物について、特に問題なく、外壁、内壁等の状態を監視、維持できた。

### (2) 建築設備の保守管理

#### ア 検査、点検、法定点検等保守管理

(ア) 簡易専用水道検査（年1回）令和6年3月19日（火）実施

業務委託先：一般社団法人神奈川県保健協会

(イ) 消防設備点検（年2回）令和5年8月7日（月）及び令和6年2月19日（月）

実施

業務委託先：藤沢総合設備株式会社

(ウ) 電気工作物保守点検（年6回）隔月1回実施

業務委託先：一般財団法人関東電気保安協会

(エ) 受水槽点検（年1回）令和6年2月26日（月）実施

業務委託先：三幸株式会社

(オ) 敷地内樹木剪定（通年）

随時清掃職員により実施

#### イ 清掃

(ア) 日常清掃（通年）

清掃職員により実施。

(イ) 定期清掃（年2回）令和5年11月27日（月）及び令和6年3月25日（月）

実施

業務委託先：マルコービルワークス株式会社

(ウ) 受水槽清掃（年1回）令和6年2月26日実施

業務委託先：三幸株式会社

### (3) 備品等の保守管理業務

#### ア 事務備品

施設の運営に支障をきたさないよう事務備品の維持、管理を適正に行った。

#### イ 事務備品消耗品

施設の運営に支障をきたさないよう必要な消耗品の購入、管理を行った。

#### ウ 重要物品

施設の運営に支障をきたさないよう保守点検を行った。

### (4) 保安警備業務

事故、災害及び犯罪等から利用者の安全を図ることができるよう適切な管理体制を整備、維持し、保安警備を適切に行った。

### (5) 施設保全業務

施設の点検、保全に努め、建築物及び設備等に不具合はなかった。



## 令和5年度

### 聴覚障害者福祉センター利用状況

項目	人数等	備考
相談	4,255 件	乳幼児、学齢児、ろうあ者、 中途失聴者、難聴者、医療相談、 電話・ファクス相談等
支援	3,320 件	補聴支援（聴力検査、補聴器適合、自立 支援等）
	306 人	聴覚障がい乳幼児を対象とした聴能、 言語及びコミュニケーション支援
	352 人	聴覚障がい者を対象としたコミュニケ ーショングループ支援、支援講座
ビデオライブラリー	19,676 件	貸し出し件数、ストリーミング配信ア クセス件数
各種講座・講習・研修会等	4,913 人	各種講座、手話通訳者・要約筆記者養 成講習会、研修会、普及啓発関係講座、 頸肩腕健診、各種会議等
派遣	525 人	手話通訳者の派遣
	943 人	要約筆記者の派遣
機器貸し出し等	544 件	福祉機器、OHP、スクリーン、テレビ、 ビデオデッキ等
ヒアリンググループ貸し出し	7 件	聴覚障がい者関係団体 5 件 民間企業等 2 件
ホームページアクセス数	61,144 件	1 日当たり 167.1 件
見学者	330 人	1 日当たり 0.9 人
部屋利用者	8,320 人	1 日当たり 27.9 人

## 令和5年度ビデオライブラリー新作番組リスト

### 《 制作 》

題 名	内 容	時 間	方 法
令和5年度 神奈川県要約筆記者 養成講習会共通講義	「聴覚障害の基礎知識(1)」 講 師 中川 辰雄 氏 (横浜国立大学名誉教授)	103分	手話通訳 字幕版
	「社会福祉の基礎知識Ⅰ(3)」 講 師 森 友彦 氏 (特定非営利活動法人神奈川県中途失聴・難聴者協 会理事長) 多賀谷 正子 氏 (公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会会員)	100分	手話通訳 字幕版
	「要約筆記者のあり方Ⅰ」 講 師 神農 さち江 氏 (神奈川県要約筆記協会会員)	109分	手話通訳 字幕版
令和5年度三者共催 要約筆記者研修会	「難聴という障害の受容について～聞こえない苦し みを乗り越えるために必要なこと～」 講 師 杉浦 彩子 氏 (心療耳科医師)	99分	手話通訳 字幕版
神奈川県要約筆記協会 創立30周年記念講演会	「神奈川の二人書きのはじまり ～利用者の声に応えたくて～」 講 師 寺井 雅子 氏 (神奈川県要約筆記協会元事務局長) 水野 鈴子 氏 (神奈川県要約筆記協会元会長)	135分	手話通訳 字幕版
令和5年度 神奈川県手話通訳者 養成講習会 「通訳Ⅰ」選考試験 (参考解答付)	令和5年度手話通訳者養成講習会「通訳Ⅰ」受講者 選考試験「手話の読み取り問題」の試験問題及び参考 解答	8分	手 話

題名	内容	時間	方法
わたしの思い出写真館	黒崎信幸氏を迎え、旅行の思い出を魅力ある豊かな手話表現で語っていただきます。	22分	手話
	黒崎信幸氏を迎え、神奈川県聴覚障害者福祉センター設立当初の思い出を、魅力ある豊かな手話表現で語っていただきます。	25分	手話
令和5年度 手話語り 総集編	令和5年4月から当センターのホームページで配信した「手話語り」。令和5年度に配信した映像全12タイトルを総集編としてまとめました。	72分	手話 ・ 字幕版
ご当地検定「神奈川県」	神奈川県を、クイズを通して紹介。 (「目で聴くテレビ」提供番組)	10分	手話 ・ 字幕

《 購入ビデオテープ 》

題名	内容	時間	方法
くまもと聴障ビデオ マガジン「みるっく」	熊本県聴覚障害者情報提供センター制作の情報番組。 (令和5年度分12タイトル12本)	各30分	手話 ・ 字幕
手話この魅力あることば No.11	愛媛県：豊田秋歳氏、宮崎県：藤村千代蔵氏、群馬県：遠藤利三郎氏の手話語り収録。	50分	手話
手話この魅力あることば No.12	滋賀県：杉本はつ氏、岐阜県：高木光代氏、京都府：小山貞夫氏の手話語り収録。	60分	手話
手話この魅力あることば No.13	鹿児島県：中村一義氏、和歌山県：谷口作男氏、岡山県：伴徹氏、山形県：斉藤茂子氏の手話語り収録。	75分	手話
手話この魅力あることば No.14	大分県：吉田弘芳氏、栃木県：亀山玲子氏、長野県：上原滋一郎氏、島根県：金井和義氏の手話語り収録。	60分	手話
手話この魅力あることば No.15	新潟県：佐藤健一氏と長崎県：川原久幸氏、茨城県：鯉渕庸子氏、山口県：中村ウタ江氏の手話語り収録。	60分	手話
手話この魅力あることば No.16	千葉県：樗澤加津人氏、広島県：土生晋氏、石川県：栄麗子氏、宮城県：佐藤光男氏の手話語り収録。	60分	手話
手話この魅力あることば No.17	福島県：佐藤邦子氏、北海道：長谷川金吾氏、大阪府：土居文子氏、徳島県：安芸正枝氏の手話語り収録。	60分	手話

題 名	内 容	時 間	方 法
手話この魅力あることば No.18	東京都：芝崎博武氏、佐賀県：中山鳥雄氏の手話語り収録。	32分	手 話
手話この魅力あることば No.19	兵庫県：山村妙子氏、東京都：斎藤日出男氏の手話語り収録。	36分	手 話
手話この魅力あることば No.20	静岡県：太田二郎氏、沖縄県：普久原初子氏の手話語り収録。	31分	手 話
手話この魅力あることば No.39	愛知県：堀場節氏、茨城県：梶山順司氏の手話語り収録。	44分	手 話
手話この魅力あることば No.40	長崎県：富永悟子氏、山口県：山本雪氏の手話語り収録。	47分	手 話
手話この魅力あることば No.41	栃木県：石井久氏、福島県：佐久間孝氏の手話語り収録。	42分	手 話
手話この魅力あることば No.42	佐賀県：中島和次氏、徳島県：大田進氏の手話語り収録。	43分	手 話
手話この魅力あることば No.43	大阪府：梅澤照子氏、愛媛県：山口一夫氏の手話語り収録。	47分	手 話
おわりなき聲（こえ）	昭和 40 年代。ろう者の主人公、孝生は妻の叶花と仲睦まじく生活を送っていた。当時はろう者に対する世間の偏見や無理解が大きく、親族からも理解や協力を得られているとは言い難い状態だった。 「私たちは、みんなと同じ生活をしちゃいけないのかな。」妻の言葉と、息子の誕生をきっかけに、孝生はろう者が安心して生活できるよう活動をスタートする。 (本編「おわりなき聲」・制作舞台裏ドキュメンタリー作品「circle」収録) 制作：社会福祉法人宮崎県聴覚障害者協会	61分	手 話 ・ 字 幕

《 寄贈ビデオテープ 》

題 名	内 容	時 間	方 法
令和 5 年度 神奈川県議会定例会	手話通訳者をワイプ方式で挿入した、神奈川県議会中継。 (令和 5 年度分 8 タイトル 8 本)	70分 ～ 100分	手 話

題 名	内 容	時 間	方 法
<p>手話で楽しむ みんなのテレビ 怪談・奇談編</p>	<p>「あなたは私の申し上げることをお信じにならない かもしれません」。舞台上のは、異なることばを語 る2人の語り手。次第に会話を繰り広げ、観客を不思 議な怪談・奇談の世界へ誘う。豊かな表現力と個性を 放つ5名のろうの俳優たちと、怪談を極める俳優・白 石加代子が、手話と語りで魅せる「死骸にまたがる男」 (小泉八雲)と「妖婆」(芥川龍之介)。聞こえない役 者と聞こえる役者が、ひとつの舞台で共に妖しい世界 をつくりあげる。</p>	30分	字 幕
<p>バリバラ “ハマってしまった人” にきいてみた ～意外と身近な依存症 の世界～</p>	<p>意外と身近な依存症を深掘り！ 依存症は日常に支障をきたしているにもかかわらず、 依存先への欲求が一生続く慢性的な脳の病気。日常に 潜む依存への誘惑はどこにあるのか、お笑い芸人の小 篁千豊さんとともに街ぶら検証！ ・薬局のアレや書店のアレも引き金に？ ・目からウロコ！海外の依存症対策 ・依存症の本当の回復とは... ○○にハマること？！ ・かつてギャンブルを止められなかったある男性の暮 らしに密着！ 家族や友人がどう付き合っていけばよいのか考えて いく。</p>	29分	字 幕
<p>ハートネットTV #きょうだい 見過ごされてきた葛藤</p>	<p>障害や病気のある人の兄弟姉妹を、ひらがなで「き ょうだい」と表現します。きょうだいは、子どもの 頃から特有の悩みを抱えやすいと言われています。 ケアに忙しい親に構ってもらえない寂しさ、社会の 偏見、親亡きあとの不安。こうした生きづらさは家 族という枠組みの中で見過ごされがちです。近年、 きょうだいたちが自ら居場所づくりをするなど、自 分らしく過ごせる未来を作ろうと奮闘しています。 見過ごされてきた、きょうだいの声に耳を傾けま す。</p>	29分	字 幕

題 名	内 容	時 間	方 法
手話アニメーション 「しゅわわん！」	NHK 制作の手話アニメーション「しゅわわん！」3 話を収録。各 5 分。 第 1 話「最高のだっこ」。齋藤さん自身が考える最高のだっことは。ただ抱くだけではなく、呼吸を合わせて、心臓の響きを感じ、「まるい」イメージでぎゅっと包み込むこと。するとほら～～。 第 2 話「いろんな風」。紙ヒコーキで遊ぶ親子。うまく飛ばせない息子に、体で感じた風を手で正確に再現してみせる、はるみち。風と一言でいっても、向き、強さ、温度などがみんな違うってわかるね。 第 3 話「おなら申告制」。ろう者はおならの音に気がつかない。でも、ためると体によくないから、齋藤家ではおならをした後にはいさぎよく申告する。ある日ドライブ中の狭い車の中でハプニングが・・・。	15 分	字 幕
きょうの健康 意外なきっかけで発症 大人のアレルギー 食物アレルギー	大人の食物アレルギーは、原因の半数以上が野菜や果物によるもので、花粉症と関りが深いことがわかってきた。野菜や果物に含まれるアレルゲンと花粉のアレルゲンが似ているため、免疫細胞が過剰反応してしまうからだ。発症のメカニズムと対処方法を紹介する。	15 分	字 幕
きょうの健康 意外なきっかけで発症 大人のアレルギー 薬剤アレルギー	薬剤アレルギーは市販薬でも発症することがある。発症例が多いのは解熱鎮痛薬だ。症状はじんましんや腫れだけでなく、時には呼吸困難などのアナフィラキシーを起こすこともあり、死亡することさえある。薬剤アレルギーの検査方法や治療法なども紹介する。	15 分	字 幕
きょうの健康 意外なきっかけで発症 大人のアレルギー アナフィラキシー	アナフィラキシーとは、蜂の毒や食物が原因で、原因にさらされてから数分から数時間で複数の臓器に症状が出る、全身性のアレルギー反応だ。時には血圧の低下や意識障害を起こすこともあり、死亡の危険もある。アナフィラキシーの原因となる意外な物質や、対処方法などを紹介する。	15 分	字 幕
きょうの健康 意外なきっかけで発症 大人のアレルギー Q&A あなたの疑問 に答えます	視聴者からの質問に専門家が答える Q&A。今回は「バラ科の果物（モモ、リンゴなど）を食べると目や耳の中もかゆくなり、喉もイガイガする。その原因と対策が知りたい」という質問など、全部で 4 つの質問に答える。	15 分	字 幕

題 名	内 容	時 間	方 法
気になるくんの やさいけんきゅう室	うちゅうにあるやさいけんきゅう室には、毎日いろいろな星からやさいがとどくよ。それをけんきゅうしているのが、室長の気になるくんとモンスターのモリだ。きょうは、ちきゅうからやさいがとどいたみたい。みんなも気になるくんとモリといっしょに、やさいをかんさつしてみよう。	17分	手 話 ・ 字 幕
国際手話ってな～に？	2025年、日本でデフリンピックが開催されます。デフリンピックとはろう者スポーツの国際大会で、「ろう者のためのオリンピック」です。世界中からろう者が集まるこの機会に、国際手話を学んでみませんか。これまで国際的な交流を数多く経験されている那須映里さんをゲストに迎え、国際手話とは何か、どんな場所で使われるのか、どうやって学んだらいいかなど、国際手話の基礎知識を教えてください。また、130語に及ぶ国際手話の単語も紹介。	44分	手 話 ・ 字 幕
にっぽん縦断 こころ旅 75日目 熊本県水俣市 とうちゃこ 586日目 福岡県北九州市	俳優の火野正平さんが、相棒・チャリオ（自転車）に乗って、お便りで寄せられた思い出に残る「こころの風景」を訪れます。2回を収録。各29分。 75日目・熊本県水俣市では、「湯の児温泉の夕日」、 586日目・福岡県北九州市では、「曲里の松並木」を訪ねます。	58分	字 幕
ちびまる子ちゃん	フジテレビ制作の「ちびまる子ちゃん」4作品を収録。各25分。 「まる子、花輪くんにヨガを習う」の巻、「まる子、魔女に狙われる？」の巻、「まる子、辞書を楽しむ」の巻、「まる子の一寸法師」の巻を収録。	100分	字 幕
ゲゲゲの鬼太郎 第七話 幽霊電車	フジテレビ制作「ゲゲゲの鬼太郎」の第七話「幽霊電車」を収録。 とある会社社長が飲み屋で「妖怪だの、幽霊だの信じるやつは、バカな人間だ」とくだをまいているところに鬼太郎が現れて反論。社長は鬼太郎を突き飛ばして去って行ってしまう。「因果応報」自分がやったことはやがて自分に返る。あくまで強気な社長だったが、こののち、世にも恐ろしいことが起こるのだった・・・。	24分	字 幕